

文部科学省

—がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン—

次代を担うがん研究者・医療人養成プラン

外部評価報告

京 都 大 学

三 重 大 学

滋 賀 医 科 大 学

大 阪 医 科 大 学

京 都 薬 科 大 学

平成24年度《次代を担う研究者・医療人養成プラン》外部評価について

1. 外部評価実施方針について

- ・ 24年度 外部評価は、評価委員による書面評価とする。
- ・ 評価委員については、3名の委員を選任する。
- ・ 外部評価項目については、事業評価ガイドライン（24.3.29 文科省 養成推進委員会）の評価項目を基本として、連携する各大学により設定された「個性や特色、得意分野に応じた各グループ固有の達成目標」及び、事業申請書に記載のあった達成目標とする。

2. 評価項目について

「外部評価項目」 (3 頁～ 5 頁) のとおり

3. 「次代を担う研究者・医療人養成プラン」概要について

「連携する大学」、「取組の概要」、「事業の目的・必要性」、「補助事業の実績」、
「補助事業に係る具体的な成果」 (6 頁～ 8 頁) のとおり

4. 24年度取組状況

「24年度取組状況等」 (9 頁～ 23 頁) のとおり

- (資料1) 入学目標人数・入学者数一覧 (24 頁) のとおり
- (資料2) 入学人員 (全国平均・京大グループ) (25 頁) のとおり
- (資料3) がんプロ学生調査 (要望・改善点) (26 頁～ 27 頁) のとおり
- (資料4) 新講座設置計画 (28 頁) のとおり
- (資料5) 事業推進委員会議事録 (外部評価の実施) (29 頁～ 30 頁) のとおり
- (資料6) キャンサーボードの体制 (31 頁～ 32 頁) のとおり
- (資料7) インテンシブコース地域貢献 (33 頁) のとおり
- (資料8) セミナー等一覧 (34 頁～ 35 頁) のとおり
- (資料9) 国際学会、英文誌への論文発表一覧 (36 頁～ 38 頁) のとおり
- (資料10) 海外学会、海外研究施設視察の参加状況 (39 頁～ 41 頁) のとおり
- 国内学会、国内研究施設視察の参加状況 (42 頁～ 46 頁) のとおり
- (資料11) プロトコル作成への関与状況 (47 頁～ 48 頁) のとおり

(資料 12) 国内学会、和文誌への論文発表一覧

(49 頁～ 52 頁) のとおり

5. 評価について

「評価結果表」

(53 頁～ 55 頁) のとおり

「講 評」

(56 頁) のとおり

6. 外部評価委員について

青森県立中央病院 院長 吉田茂昭

名古屋大学 附属病院化学療法部部長 安藤雄一教授

国際科学ジャーナリスト (元京都新聞記者) 川端真一

7. 評価実施日程について

25. 3. 11～3. 25 評価委員による評価実施 (評価項目毎の採点および講評)

「外部評価項目」

共通達成目標 1

1. 各コースの受入目標人数に対する入学者数、充足率を満たすための取組みはなされているか
2. がんに関する専門資格の取得へ向けた具体的な取組みがなされているか
3. コース履修者の満足度を満たすための取組みがなされているか
4. がんに特化した新講座の設置計画は計画どおり進められているか、講座の活動状況は
5. 教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの取組み状況、開催数と参加者数
6. 外部委員による外部評価を実施し、PDCA サイクルを活用することで、プログラムの発展的な見直しを行う体制になっているか

共通達成目標 2

7. 医療チーム（放射線治療チーム、化学療法チーム、緩和ケアチーム等）の整備数、24年度の新たな整備数
8. 多職種が共同で参加できるがんセンターボード等の整備数、24年度の新たな導入数
9. 医療チーム、がんセンターボードの質の向上のための取組実績
10. コース履修者の医療チーム、がんセンターボードへの参加人数、開催数、期間等
11. 院内がん登録件数・活用実績、地域がん登録との連携実績
12. 地域医療機関、医師会、薬剤師会、看護団体、患者団体等との連携した取組件数、参加者数
13. 社会への情報発信の取組実績（一般向け講演会の開催回数・参加者数）
14. 本事業のホームページを開設し、積極的な情報公開を行う体制となっているか

達成目標 3 国際交流

15. コース履修者の国際学会、英文誌への研究論文発表数
16. コース履修者の先進的な海外研究機関等への研修派遣数、国際学会等への参加者数、
17. 国際交流プログラムの実施数
18. 海外で活躍している研究者を講師とする講演会等の開催数
19. コース履修者が海外の先進的医療・研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み

達成目標 3 連携大学間・職種間連携

20. 連携5大学による「合同フォーラム」の開催、24年度の取組み参加状況
21. 連携大学間・人材交流等連携事業の実施件数
22. 連携5大学コース履修者の e-learning 受講登録率
23. 新たな e-learning 講義科目の提供の取組みについて
24. 医療チーム、カンサーボードの質の向上のための取組実績

達成目標 3 教育改革

25. がん診療連携拠点病院や地域医療機関・団体等と連携した教育実績件数
26. 多職種連携教育の実施件数・参加者数、多職種連携教育推進の取組み状況
27. がん診療連携拠点病院での緩和ケア研修会の修了者に対するフォローアップ研修会等の実施状況
28. 各大学がんセンターや放射線治療施設等と連携したチーム医療研修の推進

達成目標 3 地域貢献

29. 地域医療機関等と連携した地域医療貢献への取組件数
30. 市民公開講座等一般向け講演会の開催数
31. インテンシブ事業を活用した地域医療貢献の推進状況
32. 各本事業概要等の発行、ホームページの充実への取組み状況
33. 県内でのがん対策の企画、立案への貢献の取組みについて
34. I Tを用いた効率的な連携による地域完結型医療体制の構築の取組み
35. テレビ会議システムを用いた多職種カンファレンスにより、県内の医療の質向上への取組み
36. がん医療に関係する企業等との共催・連携推進の取組み

達成目標 3 研究者養成

37. コース履修者が関与したプロトコル（臨床研究実施計画書等）作成件数
38. 国際学会、英文誌への研究論文発表数
39. 学会への研究論文の発表推進への取組み
40. 先進的な海外研究機関等への研修派遣、国際学会等への参加数
41. がんプロ大学院生が国内外学会、研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み状況
42. がん研究基盤の発展構築へ向けた取組み状況
43. 新たながん医療分野の開拓推進へ向けた取組み状況

「次代を担う研究者・医療人養成プラン」概要について

連携する大学

京都大学／国立大学法人京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学

取組の概要

本事業は、平成24年度がんプロフェッショナル養成基盤推進プランで選定された京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学における次代を担うがん研究者・医療人養成プランに関する取組である。このプランにおいては先端のがん研究者の養成と地域がん医療に貢献するがん専門医療人の養成に重点を置く。前者では次代のがん研究、がん診療のイノベーションを担う人材、新規診断法や治療法、ケア法を開発できる人材を養成し、後者では地域のがん診療拠点と連携して、腫瘍内科医、腫瘍外科医、放射線治療医、乳腺専門医、婦人科腫瘍専門医、緩和医療医、がん専門薬剤師、がん専門看護師を養成する。先端研究施設、がんセンター等での分野横断的研究、集学的研究、腫瘍薬学研究等の基盤を整備、同時に集学的医療、全人的医療プログラムの充実、がん教育の推進、5大学間の人材交流を図り、人材養成とがん医療の発展を目指すものである。

事業の目的・必要性

(1) 全体

本補助事業の全体の目的は、各大学が蓄積するがん研究者およびがん専門医療人の養成基盤をさらに充実させながら、大学院コースにおける基礎研究能力、臨床研究能力の向上、がん専門医療人教育プログラムの多様化と拡充、地域がん診療拠点病院などとの連携強化ならびに問題点の改善を図り、がんプロフェッショナル養成基盤推進プランの目的である次代のがん研究、がん診療を担う人材の養成に資するため、中長期的視野に立って教育基盤の整備を行うことにある。今後のがん医療の発展には腫瘍学を深く理解し、斬新な発想で画期的な医療技術や診断治療法を開発できる人材が欠かせないが、そのためには高度な基礎研究能力、学際的研究能力を備えた先端研究者を養成することが求められている。具体的には、手術、放射線治療の領域では新しい治療機器や治療方法の開発、薬物療法、婦人科がんの領域では新規医薬品、バイオマーカーの開発、臨床腫瘍薬学分野ではトランスレーショナルリサーチの推進、がん専門薬剤師には国際試験、臨床研究の実施、医学物理学分野では高精度放射線治療の実施、推進と次世代型の放射線治療システムの開発、がんリハビリテーションの領域では臨床エビデンスの創生が必要とされており、これらを担う人材の養成が求められている。

地域がん医療貢献に関しては、集学的医療、全人的医療を実践する優れた腫瘍内科医、放射線治療医、緩和医療医の養成が急務であり、疾病頻度の急激な増加に伴い乳腺専門医や婦人科腫瘍専門医の養成は社会的な要請である。化学療法、支持療法、緩和療法、チーム医療を高度に展開できるがん専門薬剤師、がん専門看護師の養成も重要課題である。さらに、国際的視野をもったがん専門医療人が不足しており、その養成も強く望まれている。京都大学、京都薬科大学はがん研究者の養成に、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学は地域がん医療に貢献するがん専門医療人の養成により重きをおくが、互いに連携協力して人材養成、がん医療の発展に努める。

また、平成19年度からのがんプロフェッショナル養成プランとして実施し、高度がん医療を先導する人材養成拠点の形成プログラムにおける取組の充実・発展を図り、本取組を次代を担うがん研究者・医療人養成プランとして拡充することにより、がんプロフェッショナル養成基盤推進プランの目的である次世代のがん研究、がん診療における人材養成基盤の強化を図ることが、本補助事業の目的である。

(2) 本年度

本補助事業の本年度の目的は、上記の次代を担うがん研究者・がん専門医療人養成の初期的基盤整備を達成するために、各コース別の募集案内・講義概要を作成、研究プログラムの作成と開始、必要な教員、事務補佐員等の雇用、腫瘍薬物治療学講座（京都大学）、放射線腫瘍学講座（三重大学）の設置、教材、各種マニュアル等の設備備品を購入、また教育・研修プログラムの調査を行い、国際交流教育プログラムの開始、専用ホームページの開設と広報活動の開始、地域医療機関・関連企業等を対象とした各種研修会、セミナーの実施、及び本事業全体を統括する事業推進協議会の定期的に開催により、基本計画を協議、決定、評価、各事業の円滑な遂行を図ることである。

補助事業の実績

- ① 本事業の遂行に必要な教員8名（教授1、准教授2、講師2、助教3）及び事務・事務補佐員9名を雇用し、各コースの教育・研究を開始し、カリキュラムに従い、研修指導を行った。
- ② 三重大学においては、24年4月に教授1、助教1の体制をもって放射線腫瘍学講座を設置し、放射線治療の教育の充実、治療医の育成を推進した。また、滋賀医科大学においては、25年度設置予定であった臨床腫瘍学講座を24年10月に教授1、講師1の体制をもって設置し、がん専門医の育成を推進した。
- ③ 京都大学では、24年9月に教授1、講師1、助教3の体制をもって腫瘍薬物治療学分野を設置し、化学療法を中心とした治療、開発研究を推進させるとともに化学療法がん専門医の育成を推進した。
- ④ 各大学において、教育・研究環境の整備充実の一環として、内視鏡用3Dモニター・録画システム、蛍光ナビゲーションシステム、がん臨床研究サーバーの整備を行った。
- ⑤ 連携大学の各コース別の募集案内・講義概要を作成し、4月入学者の大学院生にガイダンスを行った。
- ⑥ 本事業全体を統括する連携5大学による運営委員会を開催し、事業の基本方針・基本計画等を協議・決定。また、外部有識者による外部評価を実施した。
- ⑦ 先端のがん研究者である、がん研究、診療におけるイノベーションを担い、がん診断法、治療法、ケア法、臨床腫瘍薬学、医学物理を開発できる人材養成に重点を置いたプログラムを推進した。
- ⑧ 国内外の大学附属がんセンター（アメリカ：MDアンダーソンがんセンター、韓国：ソウル大学）の教育・研修プログラムの調査を行い、本事業の評価・改善を行った。
- ⑨ 海外の先端のがん研究施設や教育研修プロジェクトに人的派遣を行い、国際交流を図るとともに、国際的視野を持ったがん専門医療人の育成を推進させた。
- ⑩ ホームページを公開し、ホームページの充実を行った。
- ⑪ 5大学にて連携病院、地域医療機関、関連企業等を対象とした包括的な医療フォーラム、公開講座、セミナーを開催し、各種研修会、研究会等を実施した。

補助事業に係る具体的な成果

- ① 本事業の遂行に必要な教員の雇用により、高度な臨床の現場において学生への実地教育に注力することができ、各大学が蓄積するがん研究者およびがん専門医療人の養成基盤の充実を図ることができた。また、事務・事務補佐員の雇用により、多様で専門性が要求される本事業を活発的に運営することができた。
- ② 三重大学においては、放射線腫瘍学講座の設置により、放射線治療の教育を充実させ放射線治療医の育成を強化でき、三重県の放射線治療レベルの向上に貢献することができた。また、滋賀医科大学においては、臨床腫瘍学講座の設置により、最新の薬物療法を促進し、がん予防、診断、治療の高度先進がん医療人の育成を強化することができた。
- ③ 京都大学においては、腫瘍薬物治療学分野の設置により、化学療法を中心とした高度ながん治療を展開し、新しいがん医療の開発研究を推進する化学療法を中心とした優れたがん医療の専門医の育成を強化することができた。
- ④ 内視鏡用3Dモニター・録画システム、蛍光ナビゲーションシステムの整備により、実際の感覚により近い感覚での実習が可能となり、次世代の手術療法・機器開発を担う人材の養成を強化することができた。また、がん臨床研究サーバーの導入により、実習・研究情報の共有化が進み、医療人養成を強化することができた。
- ⑤ 本プログラム各コースの概要を具体的に定めることにより、学生に対し周知を図ることでモチベーションの高い人材を受け入れることができた。
- ⑥ 本事業全体を統括する連携5大学による運営委員会の開催により、連携意識を高め、共同事業を進めることができた。また、外部有識者による外部評価の実施により、PDCAサイクルによる事業推進体制を構築することができた。
- ⑦ 研究論文の発表、カンファレンスの参加、プロトコルの作成、学会への参加、専門医取得講習、および、E-learningシステムの活用等プログラムを推進させ、手術療法、放射線療法、薬物療法、リハビリテーション等における医療機器や医薬品の開発、治療法や診療技術の開発が可能となるがん研究者・医療人養成学生の学力が飛躍的に向上した。
- ⑧ 先進的ながんセンターの実地調査を通じてその研修プログラムや運営方法を学ぶことにより、教育研修プログラムの改善ならびにがんセンターの整備に資することができ、がん研究者・医療人養成の推進に繋げることができた。
- ⑨ 海外先端的な学会での論文発表、学術研究情報交換により、国際的視野を持ったがん研究者・医療人の養成が可能となった。また、国際共同研究への発展、国際貢献が期待される。
- ⑩ ホームページの公開により本事業を広く国民に周知することができた。
- ⑪ 各種のフォーラム、公開講座、セミナー、研修会、研究会等を開催することにより、関連病院、地域医療機関及び関連企業等でのがん医療従事者等に対し本事業の取り組みに対する理解を深めることができ、また、地域としての協力体制の基盤構築に繋げることができた。

「24年度取組状況等」 赤字は、京大グループが設定した数値目標

番号	達成目標	取組状況等 (取組み状況や計画等を記載)	取組実績・参考資料等
1	各コースの受入目標人数に対する入学者数、充足率を満たすための取組みはなされているか	<p>○ 5年間で(医療人養成)腫瘍内科医、手術療法専門医、放射線治療専門医、乳腺外科専門医、婦人科腫瘍専門医、緩和医療医、がん専門薬剤師、がん専門看護師を80名養成を目標</p> <p>○ 5年間で(研究者養成)次世代外科療法、先端放射線治療、新しい薬物療法の開発、新規医療機器、医薬品、診療ケア方の開発研究に携わる研究者、臨床腫瘍学、医学物理学の研究者を100名養成を目標</p> <p>京都大学: 新入生オリエンテーションにおいて、がん教育の重要性を説明し履修生の獲得に努め、研究者養成全国平均(120%)を大きく上回る入学者率(212%)となった。(24年度 受入目標人数16名、入学者数34名「資料1」のとおり)また、京都大学では、別途、旧がんプロ学生のうち希望する者(27名)を、発展的に変更・拡充させた新がんプロに編入させ、本事業の目的とする「次世代のがん研究者、がん診療における人材養成強化に努めている。</p> <p>教育改革・医療人養成の全国平均入学者率108%、地域医療人養成の全国平均入学者率29%に対して、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学ともに以下の広報活動等を実施して、全国平均を大きく上回る入学者率となっている。</p> <p>三重大学: 教育改革医療人養成(24年度 受入目標人数4名、入学者数4名)、地域医療人養成(24年度 受入目標人数5名、入学者数3名)がんプロフェッショナル養成基盤推進プランの紹介と勧誘のための広報活動を実施し、コースへの入学を促している。</p> <p>滋賀医科大学: 地域医療人養成(24年度 受入目標人数2名、入学者数2名)研究者養成(24年度 受入目標人数2名、入学者数5名)受け入れ目標人数を充足するためにホームページや大学院案内などでの広報活動を実施している。</p> <p>大阪医科大学: 化学療法専門医養成コース(目標1名・入学1名)、放射線療法専門医養成コース(目標1名・入学1名)、がん手術療法専門医養成コース(目標1名・入学1名)を受け入れ目標人数を充足するためにホームページや大学院案内などでの広報活動を実施している。</p> <p>京都薬科大学: 新入生へ、「臨床腫瘍薬学」の重要性を説明し、履修生の獲得に努め入学者率150%である。(24年度 受入目標人数2名、入学者数3名)</p>	<p>(資料1) 「受入目標人数・入学者数」のとおり</p> <p>(資料2) 「全国拠点 受入目標人数・入学者数一覧」</p>
2	がんに関する専門資格の取得に向けた具体的な取組みがなされているか	<p>京都大学: 京都大学では、専門資格取得のための講習会(京都放射線腫瘍研究会 24.9.15)、(日本医療薬学会がん専門薬剤師講習会 25.3.16)を行うなど、地域代表としての専門資格取得・更新へ向けた取組みを行うとともに、がんプロ学生が希望する専門資格取得のための教育セミナー、研修会への参加を積極的に支援し認定医取得を各コースで推進している。領域別、疾患別、診断治療法ごとの各種専門医資格の取得に向けて、必要な経験、特に症例経験の集積等に十分配慮し、研修プログラムを整備している。(手術療法コース)、コース参加の大学院生のうち、専門医受験者の全員合格が得られた。(放射線治療コース)、研究室のセミナー等で最新の文献紹介を通して、がん専門薬剤師資格の取得に必要な専門知識を修得する機会を定期的に設けている。(薬剤師コース)等々の取組み実施されている。</p> <p>三重大学: 【医師養成コース】がん専門資格試験の受験に必要な各がん種別の症例の割り当てを適宜実施している。 【薬剤師養成コース】がん専門薬剤師(日本医療薬学会)の資格取得に向け、がん医療に関する臨床経験を積むための業務配属を行っている。 【看護師養成コース】大学院生が三重がん看護専門看護師会に参加し実践的に学ぶとともに、資格取得及びCNSとして研鑽を積むことを目的に参加し学習を続けている。</p> <p>滋賀医科大学: 履修案内において、それぞれのコースに在籍することで、取得が見込まれる学会資格等の概要を掲載しており、資格名・資格要件・取得にむけてのプロセス(入学前・在学中・修了後)を掲載している。また、コース主催の研修会を実施している。</p> <p>大阪医科大学: 大阪医科大学大学院医学研究科が平成24年度「臨床研究教育研修会」を3回実施</p> <p>京都薬科大学: 「がん専門薬剤師」取得へ向けた啓発指導を行っている。</p>	<p>京都大学: 24年度専門医等認定状況 日本外科学会 外科専門医認定 1名 がん治療認定医認定 1名 試験合格 3名 日本乳学会乳腺専門医認定 1名 放射線治療専門医認定 4名 医学物理士 試験合格 1名</p> <p>三重大学: 平成24年度がん薬物療法専門医試験に1名合格 平成24年度がん専門看護師試験に5名合格</p> <p>滋賀医科大学: コース主催の研修会受講者から日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医合格者1名が輩出された コース主催の研修会受講者から日本がん治療認定医機構・認定医合格者11名が輩出され滋賀医科大学内でがん治療認定医が36名に達した。 下記のがん専門医療人研修修了者が輩出された。 ○国立がん研究センター主催 相談支援センター相談員基礎研修会(2)修了者2名 相談支援センター相談員基礎研修会(3)修了者1名 院内がん登録実務初級者研修会修了者 1名 ○日本緩和医療学会主催 緩和ケアの基本教育に関する指導者研修会1名</p> <p>大阪医科大学: 平成24年7月23日開催: 3名 平成25年1月21日開催: 3名 平成25年1月28日開催: 3名</p>

3	<p>コース履修者の満足度を満たすための取り組みがなされているか</p>	<p>京都大学：京都大学では、履修生へ「がんプロへの要望・改善点について」の調査を行うなど、履修生の満足度を満たす取り組みをおこなっている。（履修生より国内外学会等派遣について、非常に良い試みであり今後も続けてもらいたいとの回答を得ている。）また、各コースにおいても、学会、研究会、海外研修等への参加を積極的に推進、最先端の研究を遂行できるように環境を整備、産学連携研究にも参加させる。（手術療法コース）、希望に添った研究テーマ、国際発表機会の提供。講座内での定期的な進捗報告会の開催。（放射線コース）、問題点を把握するために、がんプロ大学院生と指導教員が常に情報交換できる環境を整備している。（薬剤師コース）、研究指導を行い、その成果報告のために、国内外の学会発表と論文作成の指導を行っている。さらに、婦人科腫瘍専門医取得のために、手術指導、症例カンファレンスを行っている。（婦人科コース）、月2回程度定期ミーティングを行い、情報交換、研究計画進行状況のチェック、アドバイス等を行っている。また国際誌に掲載されたがんリハビリテーション関連の論文を抄読し、知識をupdateするよう務めている。がん関連の学会に積極的に派遣し、情報収集を行わせている。（リハビリコース）が行われている。</p> <p>三重大学：【医師養成コース】各コースの担当コーディネーターが、責任を持ってコース履修者の指導教育に当たっている。 【薬剤師養成コース】がん薬物療法の最新のトピックスの提案と論文の読み方の指導、薬剤業務と研究の進捗管理を定期的に行っている。 【看護師養成コース】がん学会等の全国規模で行われるセミナーや、大学内で行われる大学院セミナー、Tumor boardなどを紹介した。専門科目講義には優れた実践家を招くなど、臨床と基礎理論を結び講義を充実した。</p> <p>滋賀医科大学：コースのカリキュラムについて、研究者養成コースについては、様々な分野の科目を設定しており、幅広い分野の人材を育成できるよう設定している。</p> <p>大阪医科大学：履修生へのマンツーマンの指導が行われている。</p> <p>京都薬科大学：研究指導を行うための研究環境整備に努めている。</p>	
4	<p>がんに特化した新講座の設置計画は計画どおり進められているか 講座の活動状況は</p>	<p>京都大学：当初計画どおり、「腫瘍薬物治療学講座（分野）」を平成24年9月に設置。また、がんプロ経費にて12月より新規助教を採用、発展構築へ向けた取り組みが進められている。</p> <p>三重大学：平成24年5月より、放射線腫瘍学講座に教授が赴任し、講座活動を開始している。また、今年度に放射線腫瘍学コースに1名入学し、来年度もさらに1名の入学を予定している。</p> <p>滋賀医科大学：新講座に関しては、来年度の4月に設置予定であったものが、今年度の10月に「臨床腫瘍学講座」として設置され、教授1名、特任講師1名が配置された。すでに、腫瘍学講義を学部・大学院で担当しており、附属病院腫瘍内科及び腫瘍センターを運営して、がん診療活動と先進医療開発に従事している。さらに地域病院と連携したセミナーおよび市民公開講座等を複数回実施済みである。</p>	<p>(資料4) 「全拠点 講座設置状況」のとおり</p>
5	<p>教員の指導能力向上のためのファカルティ・デイベロップメントの取り組み状況 開催数と参加者数</p>	<p>京都大学：各疾患別の症例カンファレンス、カンサーボードの実施、さらに特定の病態に特化した疾患横断的な診療ボードを設置、FDに取り組んでいる。また、雑誌や学会等のカンサーボード、ディベートや討論にも参加している。（手術療法コース）、①毎週の病理カンファレンス（婦人科腫瘍医と病理医、20名参加）、②毎週の画像カンファレンス（婦人科腫瘍医と放射線診断医、20名参加）、③毎週の放射線治療カンファレンス（婦人科腫瘍医と放射線治療医、6名参加）を行っている。また症例に応じ、2週に1度程度、④外科カンファレンスや、⑤泌尿器科カンファレンスに婦人科腫瘍医も参加して症例検討会を行うとともにFDに取り組んでいる。（婦人科コース）、がんリハビリテーション研究会・特別講演を開催し、FDに取り組んでいる。（リハビリコース）、また、関連講座においても、骨転移カンサーボード、月1回第2（または第3）火曜日、15名前後、泌尿器科放射線科合同カンファレンス、月2回、20名前後、泌尿器科病理診断科合同カンファレンス、週1回、20名前後、毎週金曜日午前8-9時に呼吸器外科レクチャー 参加人数20名が実施されFDへの取り組みが行われている。</p> <p>三重大学：【看護師養成コース】修士特別研究では研究計画発表会・中間発表会を行い、より質の高い研究を目指した。又、教員が自らの研究を紹介する大学院研究交流会を実施し、教員・学生が研鑽する機会を作った。</p> <p>滋賀医科大学：病診連携フォーラムや勉強会を開催し、各教員等に知識を身につけるようにしている。</p>	<p>三重大学：【看護師養成コース】FD4回/年、参加者毎回20～30名</p> <p>滋賀医科大学：新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース教員の関わる講演・研修会9回（約500名）、公開講座3回（約100名）を実施した。</p>

6	<p>外部委員による外部評価を実施し、PDCAサイクルを活用することで、プログラムの発展的な見直しを行う体制になっているか</p>	<p>京都大学：PDCAサイクルを活用することにより、プログラムの発展的な見直しが行えるよう、24年度事業推進委員会において、24年度より毎年度、外部評価を実施する方針が確認された。</p> <p>三重大学：5大学 事業推進運営委員会において毎年度外部評価を行うことを確認。</p> <p>滋賀医科大学：5大学 事業推進運営委員会において毎年度外部評価を行うことを確認。また、H24年8月7日滋賀医科大学学外有識者会議を開催し外部評価が行われた。</p> <p>大阪医科大学：5大学 事業推進運営委員会において毎年度外部評価を行うことを確認。</p> <p>京都薬科大学：5大学 事業推進運営委員会において毎年度外部評価を行うことを確認。</p>	<p>京都大学：（資料5）「24年度 がんプロ養成管理委員会議事録」、 「24年度 事業推進運営委員会議事録」のとおりに</p>
7	<p>医療チーム（放射線治療チーム、化学療法チーム、緩和ケアチーム等）の整備数 24年度の新たな整備数</p>	<p>京都大学：京都大学では、放射線治療医、診療放射線技師、医学物理士からなる放射線治療医療チーム、がん薬物療法専門医、がん看護専門看護師、がん専門薬剤師からなる薬物治療チーム、また、精神緩和に関わる、精神科専門医1名（専任准教授）、身体緩和に関わる内科医師1名（専任助教）、さらに緩和薬物治療に対応する専任薬剤師（専従）、緩和看護に関わるがん専門看護師2名（専任、専従）による癌緩和ケアチームを編成し、緩和外来を開設、チームで入院患者の診療にあたり教育プログラムにも有効に活用されている。</p> <p>臓器別の診療科横断的なユニット診療を実践し（脳腫瘍/小児脳腫瘍ユニット、頭頸部癌ユニット、食道癌ユニット、胃がん/GISTユニット、肺癌・縦隔腫瘍ユニット、乳癌ユニット、膵癌ユニット、大腸癌ユニット、前立腺癌ユニット、小児癌ユニット、原発不明がん/希少がんユニット、計11ユニットプラス全種 1）教育プログラムにも有効に活用されている。</p> <p>平成24年度は、小児癌、原発不明/希少癌の2つのユニットを新設。*ユニットは、癌種ごとに専門診療科（内科、外科、放射線治療科、腫瘍内科、放射線診断科）が、診療科の壁を越えて、カンファレンスはもちろん、同日に外来を行ったり、病棟での診療や実践教育を行う新しい取組である。</p> <p>三重大学：平成24年度より、緩和ケアチームに漢方医師、小児科医師、麻酔科医師、臨床心理士、栄養士も加わり、多職種によるチーム編成となっている。：緩和ケアチームによる回診、検討会を週2回、月曜日と水曜日に行い、定例会を月1回（計9回）開催した。</p> <p>滋賀医科大学：腫瘍センター内に化学療法室に化学療法チームを配置している（医師5名、他看護師・薬剤師）。腫瘍センター内に緩和ケアチームを配置し、医師（専従・専任1名）、看護師（専従1名）、薬剤師（専任1名）、ソーシャルワーカー（専任1名）がチーム回診と定例カンファレンスを行っている。</p> <p>大阪医科大学：大阪医科大学では既に緩和ケアチームが整備されている。</p>	<p>京都大学：資料6（がんセンターボード一覧）のとおりに</p>
8	<p>多職種が共同で参加できるがんセンターボード等の整備数 24年度の新たな導入数</p>	<p>京都大学：資料6（がんセンターボード一覧）のとおりに</p> <p>24年度より、・原発不明癌および希少癌に対するがんセンターボードを立ち上げ、症例発生から1週間以内のon demand開催で、関連する複数の診療科、放射線診断科、放射線治療科、病理科の参加により速やかに治療方針と担当診療科が決定され治療が導入されている。さらにfollow upボードも開催して関係者へのフィードバックも行っている。</p> <p>また、小児癌ユニットを立ち上げ、小児癌に関連する血液内科、整形外科、脳外科などが参加し、診療科横断的な診療を実践している。</p> <p>さらに、各コースでのカンファレンス等は、・薬物療法カンファレンス、病理カンファレンス、画像カンファレンス、骨ボード等病態別のボードを設置し、多職種から参加のチームカンファレンスを行っている。（手術療法コース）</p> <p>外来化学療法に関する症例検討会を週1回、診療科横断的な連絡会を月1回、京大がんセンターの運営に関する会議を緩和ケア、外科等も交えて隔月に開催している。（抗悪性コース）、</p> <p>その他関連講座においても、毎月第3月曜日午前8時～9時 Mortality and Morbidityカンファレンス（参加人数約20人）、入院患者データベースの整備、カンファレンス用データベースの整備、各種職種が参加する移植前カンファレンスの実施、・泌尿器科クリニカルカンファレンス、週2回（月、水曜日）実施 ・泌尿器科画像カンファレンス、週1回火曜日実施 ・前立腺がんユニットカンファレンス、週1回水曜日、呼吸器カンファレンス（週1）、・骨転移がんセンターボード、月1回第2（または第3）火曜日、15名前後、・泌尿器科放射線科合同カンファレンス、月2回、20名前後、・泌尿器科病理診断科合同カンファレンス、週1回、20名前後、毎週金曜日午前8-9時に呼吸器外科レクチャー 参加人数20名の取組みが行われている。</p> <p>三重大学：多職種の参加が可能なチューマーボードを毎月第2水曜日に月1回開催している。また、骨転移合同カンファレンスを毎月第3月曜日に月1回開催している。</p> <p>滋賀医科大学：消化器、呼吸器、乳腺等の各臓器別の検討会が毎週開催されている。</p> <p>大阪医科大学：大阪医科大学では既に緩和ケアチームが整備されている。</p>	<p>京都大学：資料6（がんセンターボード一覧）のとおりに</p> <p>三重大学：平成24年度は平成25年2月までの時点でチューマーボードは計10回、骨転移合同カンファレンスは計9回開催した。</p>

9	医療チーム、 がんセンター ボードの質の 向上のための 取組実績	<p>京都大学：専門の異なる各種の専門家が一同に会するように設定し、雑誌、学会等のがんセンターボードへの参加を勧めている。(手術療法コース)、診療科横断的ながんセンターボードを開催し、診療の質の向上を図っている。・診療科および職種横断的なカンファレンスを定期的に開催し、診療の質の向上と情報の共有を図っている(具体的には、外来化学療法に関する症例検討会を週1回、診療科横断的な連絡会を月1回、京大がんセンターの運営に関する会議を緩和ケア、外科等も交えて隔月に開催している。(抗悪性コース)、各履修者の研究専門分野に応じて京大病院の関連するがん診療関連カンファレンス等に参加させ、情報収集、情報交換に当たらせている。(リハビリコース)、その他関連講座においても、毎月第3月曜日午前8時～9時 Mortality and Morbidityカンファレンス(参加人数約20人)、入院患者データベースの整備、カンファレンス用データベースの整備、各種職種が参加する移植前カンファレンスの実施、・泌尿器科クリニックカンファレンス、週2回(月、水曜日)実施 ・泌尿器科画像カンファレンス、週1回火曜日実施 ・前立腺がんユニットカンファレンス、週1回水曜日が実施され情報の共有・横断化への質の向上に努めている。</p> <p>三重大学：年2回、3月と9月にがんチーム医療研究会を開催し、県内のすべてのがん診療連携拠点病院の多職種が参加し、セミナー、情報交換を行っている。</p> <p>滋賀医科大学：がんセンターボードを行う際には、できるだけ多くの関連する科の医師に出席の依頼を行い、十分に多方面から質の高い検討ができるように心がけている。</p> <p>大阪医科大学：毎月1回緩和ケア委員会を開催</p>	<p>三重大学：三重県内のがん診療連携拠点病院のそれぞれの緩和ケアチーム、化学療法チームが整備され、活動が活性化されている。</p> <p>滋賀医科大学：がんセンターボードでは、腫瘍内科、消化器内科、血液内科、放射線科、病理部、消化器・乳腺一般外科、呼吸器外科、泌尿器科、小児科の医師が参加し、質の高いカンファレンスが行われた。</p> <p>大阪医科大学：化学療法専門医養成コース：1名</p>
10	コース履修者の 医療チーム、 がんセンター ボードへの 参加人数、 開催数、期間 等	<p>京都大学：履修生全員が参加している。(新入生では公式参加ではなく見学としての参加がある。) 薬物療法カンファレンス：5人、週1回、病理カンファレンス：1人、週1回、画像カンファレンス：1人、週1回、骨ボード：1人、月1回(手術療法コース) がんプロ学生全員：放射線治療科マンデーミーティング(毎週水曜日)、放射線治療症例検討会(毎週水曜日) テーマごと：放射線治療科技術ミーティング(毎週水曜日)、前立腺IMRTカンファレンス(毎週水曜日)、食道癌ユニットカンファレンス(毎週水曜日)、前立腺癌ユニットカンファレンス(毎週水曜日)、膀胱癌ユニットカンファレンス(毎週金曜日)など(放射線コース) がんプロ学生全員：治療科医師、技師、物理士カンファレンス(毎週水曜日)、放射線治療科マンデーミーティング(毎週水曜日)、医学物理グループカンファレンス(毎週水曜日)、前立腺IMRTカンファレンス(毎週水曜日)、放射線治療症例検討会(毎週水曜日)(先端物理コース) 各履修者の研究専門分野に応じて京大病院の関連するがん診療関連カンファレンス等に参加させ、情報収集、情報交換に当たらせている。(整形・腫瘍カンファレンス、呼吸リハカンファレンス、がんサポートチーム、外来化学療法部大腸がんユニット、など、各履修者が週1～2回)(リハビリコース)</p> <p>三重大学：緩和ケアチームの回診、検討会への参加、チューマーボードへの参加をコース履修者の単位修得の対象として扱っている。</p> <p>滋賀医科大学：附属病院腫瘍センターに教育・研修部門を設置している。コース履修者の医療チーム、がんセンターボードへの参加を許可している。</p> <p>大阪医科大学：毎週水曜日がんセンターボードへの参加</p>	<p>三重大学：平成24年度は平成25年2月までの時点でチューマーボードは計10回開催している。コース履修者の参加者数は延べ22名、院生全体の参加者数は延べ96名であった。</p> <p>大阪医科大学：化学療法専門医養成コース：1名</p>
11	院内がん登録 件数・活用実 績、地域がん 登録との連携 実績	<p>京都大学：2011年診断症例 3,669件を国立がん研究センターがん情報センターへ提出 2009年以降の診断症例(一部重複あり) 10,569件を京都府医師会(地域がん登録)へ提出 ※2011年診断症例とは・・・2011年1月1日～2011年12月31日までに当院で「がん」と診断されたか、他院で「がん」と診断されて当院を初めて受診した症例をいう。腫瘍の数であり、患者人数ではない。</p> <p>三重大学：院内がん登録と臓器がん登録を連携するための協議を行っている。三重大学で地域がん登録を行っているため、三重大学の院内がん登録はすべて地域がん登録と連携している。</p> <p>滋賀医科大学：附属病院腫瘍センターにがん登録部門を設置している。</p> <p>大阪医科大学：院内がん登録件数：2572件</p>	<p>三重大学：平成24年度に集計した平成23年度の院内がん登録件数は1530件で、すべてのデータが地域がん登録で活用されている。</p> <p>滋賀医科大学：平成23年の院内がん登録件数1371件 H24.4～25.3 地域がん登録件数1186件</p> <p>大阪医科大学：院内がん登録件数：2572件</p>

12	地域医療機関、医師会、薬剤師会、看護団体、患者団体等との連携した取組件数、参加者数	<p>京都大学：京都大学では、地域貢献のためインテンシブコースを設置し（外来がん化学療法チーム養成コース、高度放射線治療を担う人材養成コース、地域がん医療を担う薬剤師養成コース）地域医療機関等と連携した取組みを行っている。主なものとして、「大腸癌に関するチーム医療研修会」、「高精度放射線治療ワークショップ」、「京大医療薬理学研究会」を実施。また、地域がん医療を担う薬剤師養成京都乳がんコンセンサス会議3回開催 各回とも参加人数80名（手術療法コース）</p> <p>①産婦人科手術・化学療法研究会(H24/2/4、約50人)、②研修医・修練医のため産婦人科サマーセミナー(H24/7/7、約50人)、③温知会サマークリニカルフォーラム(H24/7/16、約50人)、④京都女性のヘルスケア研究会(H24/12/2、約30人)（婦人科コース）</p> <p>その他関連講座においても、・前立腺がん検診に係る講習会、2012年7月26日、京都府医師会、112名 ・前立腺がん検診精密検査医療機関向け講習会、2012年9月13日、京都府医師会、25名 平成24年11月17日 第4回胸部腫瘍セミナー 約80人（福井赤十字病院、神戸市立医療センター中央市民病院、天理よろづ相談所病院）が実施された。</p> <p>三重大学：平成24年9月9日に三重県医師会、津地区医師会、日本膀胱学会と連携し、パープルリボンin津（膀胱がんに光をあてる）を開催した。平成24年12月22日に志摩地域で地域がん診療連携拠点病院の伊勢赤十字病院、地元の志摩病院、志摩医師会、三重県薬剤師会、三重県看護協会、三重県放射線技師会、三重県臨床検査技師会、日本対がん協会三重支部等と連携した公開講座を開催した。</p> <p>滋賀医科大学：インテンシブコースを積極的に行っており、薬剤師会や放射線協会等と連携して定期的にセミナー等を行っており、地域医師会及び医療機関向けのがんの診断、化学療法、放射線療法、緩和ケアに関わる研修会を複数開催している。</p>	<p>京都大学：資料7（インテンシブコース地域貢献）のとおり および資料8（セミナー等一覧）のとおり</p> <p>三重大学：パープルリボンin津を三重大学で開催し、300名が参加した。志摩の市民公開講座には150名が参加した。</p> <p>滋賀医科大学：今年度 セミナー等開催数：13回、合計参加者数810名 地域医療機関との合同カンファレンス 5回実施 159名参加 地域の医師を対象とした緩和ケアに関する研修：2回実施；106名参加 地域の医師を対象とした放射線・化学療法に関する研修：7回実施 348名参加 地域の医師を対象としたがんの早期診断に関する研修：3回実施 125名参加 がん医療に携わる医師を対象とした緩和ケア研修会：1回実施 32名参加 がん患者及びその家族の悩み、体験を語る場の設定：月1回 地域の医療機関の医師と相互に診断及び治療に関する連携協力のための会議：6回実施 166名参加 地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース：2回実施</p>
13	社会への情報発信の取組実績（一般向け講演会の開催回数・参加者数）	<p>京都大学：乳がん市民公開講座3回（参加人数 1回目約150人 2回目 約80人 3回目開催予定）（手術療法コース） 創薬や新薬承認、医療薬理学研究の情報発信を目的に、京大医療薬理学研究会を開催した（平成24年11月17日、参加者145名）。（薬剤師コース） その他関連講座において、・日本泌尿器科学会100周年記念市民公開講座 in 京都、約300名、市民公開講座 手術ロボットが支えるがんの最先端治療、258名、・腎癌研究会第5回市民公開講座、485名、・第3回JCAP研究会市民公開シンポジウム「前立腺がんを克服しみんな元気で楽しく」、約200名、市民公開講座「ロボットが支えるがんの最先端治療」（平成24年10月28日 京都）300名、市民公開講座「肺癌外科治療の最新線」（平成24年11月10日 岡山）200名、10月28日 ロボット支援手術（癌に対する）市民公開講座 300名を実施</p> <p>三重大学：津市内と津以外の地域で年2回、一般向けの市民公開講座を開催し、社会への情報発信を行っている。</p> <p>滋賀医科大学：がんに関連した市民講座を開催することで情報発信をしている。</p> <p>大阪医科大学：パンフレットの作成、ホームページによる情報発信</p>	<p>京都大学：資料8（セミナー等一覧）のとおり</p> <p>三重大学：平成24年12月22日に志摩地方の阿児地区で放射線療法と緩和ケアをテーマにした市民公開講座を開催し、150名の参加者があった。平成25年3月2日に津地区で市民公開講座を予定しており、現在、その準備を進めている。</p> <p>滋賀医科大学：平成24年度市民講座開催数：6回</p> <p>大阪医科大学：</p>
14	本事業のホームページを開設し、積極的な情報公開を行う体制となっているか	<p>京都大学：HP 京都大学「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」を開設し、市民講座、フォーラム、シンポジウムの開催案内を始めとして、社会へ向けた積極的な情報発信を行う体制が構築されている。</p> <p>三重大学：三重大学の大学院のホームページ、三重大学医学部附属病院がんセンターのホームページでそれぞれ本事業の情報公開を行っている。</p> <p>滋賀医科大学：本学のホームページにがんプロのホームページにリンクさせており、文部科学省や京都大学のがんプロのページに飛ぶことが可能となっている。また、本学のホームページにおいて、受入人数・授業科目・養成像や実施したセミナー等を掲載している。</p> <p>大阪医科大学：専用のホームページを開設し、情報を集約して発信。</p>	<p>京都大学：HP http://ganpro.med.kyoto-u.ac.jp/</p>

15	コース履修者の国際学会、英文誌への研究論文発表数	<p>○ 5年間での国際学会、英文誌への研究論文発表 100件を目標</p> <p>京都大学：23件 資料9（国際学会、英文誌発表のとおり）</p> <p>三重大学：各コースのコーディネータにより、コース履修者に対して、国際学会、英文誌への発表に対する教育、指導が行われている。</p> <p>滋賀医科大学：1件</p> <p>京都薬科大学：1件</p>	<p>京都大学：23件 資料9（国際学会、英文誌発表のとおり）</p> <p>滋賀医科大学：英文誌：1件、 Pharmacokinetic/Pharmacodynamic Analysis of a Hemodialyzed Patient Treated with 25 mg of Sunitinib., Case Rep Oncol. 2012 Sep;5(3):627-32.</p> <p>京都薬科大学：論文1報、</p>
16	コース履修者の先進的な海外研究機関等への研修派遣数、国際学会等への参加者数	<p>○ 5年間での海外の先進的な研究機関等への研修派遣、国際学会等への参加 60人を目標</p> <p>京都大学：（資料10）「海外派遣一覧」のとおり、26件</p> <p>三重大学：コース履修者の研修派遣、国際学会への参加に対しては、旅費等の経済的な支援を行っている。</p> <p>滋賀医科大学：新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース履修者1名が年2回チョーライ病院で研修した。</p> <p>京都薬科大学：国際学会（Purine2012）へ1名参加</p>	<p>京都大学：（資料10）「海外派遣一覧」のとおり、26件</p>
17	国際交流プログラムの実施数	<p>○ 5年間での国際交流プログラムの実施 5件を目標</p> <p>京都大学：京都大学では、1) MDアンダーソンとの交流、2) 韓国ソウル大学がんセンターとの交流、3) 韓国Yonseiがんセンターとの交流、4) ジョージワシントン大学、5) オックスフォード大学、6) インドTATAがんセンターとGCGC交流プログラム、7) アメリカのDuke大学婦人科腫瘍学部門との共同研究、8) 韓国アサンメディカルセンター泌尿器科との交流プログラム、9) 早期前立腺癌PSA監視療法に関する国際共同研究(PRIAS-JAPAN)、10) 筋層非浸潤膀胱癌に対する狭帯域光観察を用いたTURBTの有効性と安全性に対する国際共同研究(CROES)を実施し国際交流プログラム、11) ベルギー自由大学との放射線治療機器において先端物理研究者養成のための技術開発連携等との国際交流プログラムが実施された。</p>	
18	海外で活躍している研究者を講師とする講演会等の開催数	<p>○ 5年間での海外で活躍している研究者を講師とする講演会等の開催 10件を目標</p> <p>京都大学：① Special Oncology Seminar on “ULTRASOUND IN GYNECOLOGICAL ONCOLOGY”, (H24/4/10)、②Special Oncology Seminar on “GYNECOLOGIC CANCER (H24/5/29)、③Selection of patients with early cervix cancer who might benefit from the Okabayashi variant of the radical hysterectomy, The Amsterdam experience (H24/10/29)、④Vulvar Cancer Clinical Aspects、(H24/11/5)、⑤がんリハビリテーション特別講演会 (24/11月) ⑥John M Fitzpatrick MD, PhD, Prof. of Surgery and UCD investigator of University College Dublin(Prostate Cancer Seminar、(24/6/13)、⑦Strategies of stem cell self-renewal: from maintenance to cancer2013/7/13、⑧Towards single molecule systems biology2013/7/13、⑨KRAB' n' KAP: From controlling endogenous retroelements to supporting the replication dynamics of human viral pathogenesis2013/10/22、⑩Dynamics of HTLV-1 replication in vivo2013/11/1、What Constitutes a Protective HLA Class I Genotype in HTLV-1 Infection?2013/1/23の海外で活躍する研究者を招へいた講演会を実施</p> <p>三重大学：三重骨転移セミナーで米国インディアナ大学教授をお招きして講演会を予定している。</p> <p>滋賀医科大学：新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コースで川崎医科大学臨床腫瘍学教授を招き、最新の支持療法の講演会を行った。 新しい外科医療開発・応用を担う研究者養成コースが開催したセミナーにおいて、産業界地域の放射線治療を担う専門医養成コースにおいて、乳がんの権威である講師（放射線治</p>	<p>三重大学：平成25年4月22日に三重骨転移セミナーの開催を予定しており、現在、その準備を進めている。</p> <p>滋賀医科大学：新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース：1回 新しい外科医療開発・応用を担う研究者養成コース：1回 地域の放射線治療を担う専門医養成コース：1回</p>

19	<p>コース履修者が海外の先進的医療・研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み</p>	<p>○ がんプロ大学院生が海外の先進的医療・研究機関等へ研修する場合のサポート体制を整備することを目標</p> <p>京都大学：「24年度 がんプロ養成管理委員会」において、国際的視野を有した研究者への養成のため、国際学会での発表、がん研究施設への研修に積極的に参加させることが確認され、5月・10月の2回に分け、がんプロ履修生に海外派遣等募集案内を行った。</p> <p>三重大学：コース履修者の海外の先進的医療・研究機関等への研修に対しては、各コースのコーディネーターがサポートし、旅費等の経済的な支援を行っている。</p> <p>滋賀医科大学：大学の短期・長期留学支援制度を整備している。</p>	
20	<p>連携5大学による「合同フォーラム」の開催 24年度の取組み参加状況</p>	<p>○ 年1回 連携5大学による「合同フォーラム」の開催を目標</p> <p>京都大学：24年度「医療フォーラム」を、24年12月21日に開催 北海道大学 白土先生、国立がん研究センター 大津先生、聖隷三方原病院 森田先生による特別講演および文部科学省 渡辺企画官による講演に引き続き、連携する5大学における重点区分と特色が紹介された。</p> <p>三重大学：合同フォーラムに参加し「連携する5大学における重点区分と特色について」発表を行った。 薬剤師コースの合同ミーティングを京都大学にて開催予定（平成25年2月16日）である。</p> <p>滋賀医科大学：昨年12月末に京都大学において開催された合同フォーラムに参加し、滋賀医科大学の各コース説明及び受入れ実績等を発表した。</p> <p>大阪医科大学：平成24年12月21日（金）に連携5大学による「医療フォーラム」において、大阪医科大学における重点区分と特色を発表。</p>	
21	<p>連携大学間・人材交流等連携事業の実施件数</p>	<p>○ 5年間での連携大学間・人材交流等連携事業の実施件数 30件を目標</p> <p>京都大学：24年6月1日（金） 第一回（5大学）事業推進運営委員会、24年12月21日（金）第二回（5大学）事業推進運営委員会を開催。 平成24年10月30日（火）5大学事務テレビ会議を実施、 また、各コースにおいても、平成25年2月16日（土）がんプロ薬剤師コース4大学連携合同コース会議を実施（薬剤師コース）、京大病院高精度放射線治療ワークショップ（3回：2012/6/9-10、9/22-23、2013/2/2-3）、大腸癌に関するチーム医療研修会（6回）、生殖医学フォーラム（三重大学、京都大学、その他の大学が参加）5/24、25）、がんリハビリテーション特別講演会（大阪医科との連携講演）等の連携大学間との交流が実施された。</p> <p>三重大学：連携する京都大学から講師を招き、三重オンコロジーセミナーを開催する予定である。</p> <p>滋賀医科大学：京都大学に特別研究学生としてがんプロコース在籍者を派遣しており、また京都薬科大学から特別研究学生を受け入れて、がんプロのセミナー等に積極的に参加していただいている。附属病院腫瘍センター化学療法室および緩和ケアチームにおいて、近畿地域の病院および医療大学から研修生を受け入れている。</p> <p>大阪医科大学：がんリハビリテーション特別講演会（京都大学との連携講演）、大阪市立大学(他拠点)への合同フォーラムに参加、</p> <p>京都薬科大学：特別研究学生を滋賀医科大学へ派遣し、がんプロのセミナー等に積極的に参加させている。</p>	<p>三重大学：平成25年3月1日に開催する三重オンコロジーセミナーの準備を進めている。</p> <p>滋賀医科大学：京都大学派遣人数：1名 京都薬科大学受入人数：2名 神戸市立医療センター中央市民病院に教員1名と学生3名が訪問し、施設見学、意見交換会を行った。 化学療法室にて、京都薬科大学、同志社女子大学、神戸薬科大学、大阪大谷大学、立命館大学、武庫川女子大学から計33名が研修を行った。合計指導時間 346.5時間。 緩和ケアについては、京都薬科大学、同志社女子大学、神戸薬科大学、大阪大谷大学、立命館大学、武庫川女子大学から計33名が研修を行った。合計指導時間 44時間。</p>

22	連携5大学 コース履修者 のe- learning受 講登録率	<p>○ 連携5大学がんプロ大学院生の e-learning 受講登録100%を目標</p> <p>京都大学：HP 京都大学「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」において受講募集案内を行っているところで、履修生のうち、京都大学86%、滋賀医科大学43%、三重大学29%、大阪医科大学50%、京都薬科大学100%が受講している。</p> <p>三重大学：コース履修者のe-learningの講義受講を単位修得の対象科目として認定している。</p> <p>滋賀医科大学：連携5大学のe-learningに登録させ、受講を積極的に勧めている。</p>	
23	新たな e- learning 講 義科目の提供 の取組みにつ いて	<p>○ 新たな e-learning 講義科目の提供を推進させることを目標</p> <p>京都大学：19年度から提供されている京都大学E-ラーニングについては、24年度からの新規がんプロにおいても提供を続けている。さらに、25年度より全国E-ラーニングへの授業提供を加えて行おうと新規授業の撮影・提供を計画している。これにより、履修生には全国のE-ラーニング授業の受講も可能となり、より分野横断的、先進的教育が推進されると期待される。</p> <p>三重大学：三重大学が提供する現在のe-learning 講義科目の内容について、アップデートの準備中である。</p> <p>滋賀医科大学：5大学において検討中</p> <p>大阪医科大学：5大学において検討中</p> <p>京都薬科大学：5大学において検討中</p>	
24	医療チーム、 キャンサー ボードの質の 向上のための 取組実績	<p>○ 医療チーム、キャンサーボードの質の向上のための取組推進を目標</p> <p>京都大学：専門の異なる各種の専門家が一同に会するように設定し、雑誌、学会等のキャンサーボードへの参加を勧めている。(手術療法コース)、診療科横断的なキャンサーボードを開催し、診療の質の向上を図っている。・診療科および職種横断的なカンファレンスを定期的で開催し、診療の質の向上と情報の共有を図っている(具体的には、外来化学療法に関する症例検討会を週1回、診療科横断的な連絡会を月1回、京大がんセンターの運営に関する会議を緩和ケア、外科等も交えて隔月に開催している。(抗悪性コース)、各履修者の研究専門分野に応じて京大病院の関連するがん診療関連カンファレンス等に参加させ、情報収集、情報交換に当たらせている。(リハビリコース)、その他関連講座においても、毎月第3月曜日午前8時 9時 Mortality and Morbidity カンファレンス(参加人数約20人)、入院患者データベースの整備、カンファレンス用データベースの整備、各種職種が参加する移植前カンファレンスの実施、・泌尿器科クリニカルカンファレンス、週2回(月、水曜日)実施 ・泌尿器科画像カンファレンス、週1回火曜日実施 ・前立腺がんユニットカンファレンス、週1回水曜日が実施され情報の共有・横断化への質の向上に努めている。</p> <p>三重大学：緩和ケアチームの検討会、チューマーボードに他施設からの参加を奨励している。三重県内のがん診療連携拠点病院の医療チームが一同に会したチーム医療ワークショップを年1回開催している。</p> <p>滋賀医科大学：参加した科：腫瘍内科、消化器内科、血液内科、放射線科、消化器・乳腺一般外科、呼吸器外科、泌尿器科、小児科 H24年度実施：2回</p>	<p>三重大学：緩和ケアチームの定例会には、毎回、済生会松阪病院、遠山病院の緩和ケアチームが参加し、多施設合同の検討会を実施している。平成25年9月に三重県がんチーム医療ワークショップを開催する予定である。</p>

<p>25</p> <p>がん診療連携拠点病院や地域医療機関・団体等と連携した教育実績件数</p>	<p>○ 5年間でがん診療連携拠点病院や地域医療機関・団体等と連携した教育実績150件を目標</p> <p>京都大学：京大病院高精度放射線治療ワークショップ（3回：2012/6/9-10、9/22-23、2013/2/2-3）、大腸癌に関するチーム医療研修会（6回）、また、各コースにおいて、研修医・修練医のため産婦人科サマーセミナー、温知会サマークリニカルフォーラム（H24年6月より10月まで週1回、静岡県立総合病院に婦人科腫瘍手術の指導のためにがんプロの教官を派遣）（婦人科コース）、東海がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン緩和ケアスタッフ人材育成セミナーへの派遣（リハビリコース）が実施された。</p> <p>三重大学：三重県内のすべてのがん診療連携拠点病院と地域の医療機関、三重県医師会、三重県病院薬剤師会、三重県看護協会と連携したがんチーム医療研究会を年2回開催し、がん医療に関するセミナー、情報交換を行っている。</p> <p>滋賀医科大学：第8回滋賀県5大がん地域連携バス研修会を行い、滋賀県内の医療機関等と情報交換・知識共有を行った。</p>	<p>三重大学：平成24年9月11日のがんチーム医療研究会には107名が参加した。 【看護師養成コース】三重がん看護専門看護師会に、院生が毎月参加し、実践的に学習した。また、三重県内のジェネラリストを対象に三重がん看護フォーラム開催した（5月開催・140名参加）。</p> <p>滋賀医科大学：地域医療機関から派遣された施設2名の医師を対象に、附属病院腫瘍センター化学療法室で計53日間の研修を実施した。 第8回滋賀県5大がん地域連携バス研修会 参加人数81名 地域医療機関との合同カンファレンス 5回実施 159名参加 地域の医師を対象とした緩和ケアに関する研修：2回実施：106名参加 地域の医師を対象とした放射線・化学療法に関する研修：7回実施 348名参加 地域の医師を対象としたがんの早期診断に関する研修：3回実施 125名参加 薬剤師コース：日本病院薬剤師会のがん薬物療法認定薬剤師資格取得のための研修生を2名、県内の拠点病院から受け入れた。2012.9.3-11.18</p>
<p>26</p> <p>多職種連携教育の実施件数・参加者数多職種連携教育推進の取組み状況</p>	<p>○ 5年間で多職種連携教育（がんチーム医療研究会（10回・450名）を目標 ○ 多職種連携教育の取組推進を目標</p> <p>京都大学：京都大学では、大腸癌に関するチーム医療研修会（年6回・薬剤師・看護婦・医師72名参加）、京大病院高精度放射線治療ワークショップ（年3回・医師・技師・医学物理士6名参加）、京都のがん薬物療法を熟く語る会（5/17・60名）、京都放射線腫瘍研究会（9/16・110名）また各コースにおいて、週1回、症例カンファレンスとして、乳腺外科、化学療法部、放射線診断科、薬剤師、看護師が合同で診療方針の検討を行っている。がんプロ履修者は5人参加。また、乳腺外科、病理診断科、放射線診断科の合同で週1回、病理診断カンファレンスを開催、がんプロ履修者は1人参加（手術療法コース）、京都大学工学研究科大学院生への講義・実習の開催（物理コース）などの多職種教育を実施、また、E-ランニング配信において多職種連携教育を推進している。</p> <p>三重大学：三重県がんにおける質の高い看護師育成研修、三重大学医学部附属病院がん看護初級者研修に医師、薬剤師が講師として参加した。</p> <p>滋賀医科大学：緩和ケア研修会では、医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーに対して、研修を行い、多職種の連携を図っている。地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コースで多職種での教育推進、連携を図った。</p> <p>大阪医科大学：大阪医科大学緩和ケアチームによる緩和ケア事例検討会（平成24年12月13日）への参加</p>	<p>三重大学：質の高い看護師育成には、三重県内のがん診療連携拠点病院より8名の看護師が参加し、がん看護初級者研修には三重大学医学部附属病院の看護師16名が参加した。</p> <p>滋賀医科大学：医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー 参加32名 地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース：2回実施</p> <p>大阪医科大学：化学療法専門医養成コース：1名</p>

27	がん診療連携拠点病院での緩和ケア研修会の修了者に対するフォローアップ研修会等の実施状況	<p>○ 5年間でのがん診療連携拠点病院での緩和ケア研修会の修了者に対するフォローアップ研修会 50名を目標</p> <p>京都大学：京都大学では、京都府健康福祉部とも連携して、「緩和ケア研修会」(2012/6/16-17)、ELNEC-J研修会(エンドオブライフケアについて)(2012/12/15-16)を、京都府下の医師、薬剤師、看護師を対象としたフォローアップ研修を附属病院で実施。</p> <p>三重大学：各がん診療連携拠点病院が主催する緩和ケア研修会の修了者に対するフォローアップ研修会を年1回開催し、医師だけでなく、薬剤師、看護師への参加も呼びかけている。</p> <p>大阪医科大学：大阪医科大学緩和ケアチームによる緩和ケア事例検討会(平成24年12月13日)への参加告知</p>	<p>三重大学：緩和ケア研修会の修了者に対するフォローアップ研修会を平成24年9月29日に開催し、医師14名、薬剤師3名、看護師7名が参加した。</p>
28	各大学がんセンターや放射線治療施設等と連携したチーム医療研修の推進	<p>○ 各大学がんセンターや放射線治療施設等と連携したチーム医療研修の推進を目標</p> <p>京都大学：京都大学では、大腸癌に関するチーム医療研修会(年6回・薬剤師・看護婦・医師72名参加)、京大病院高精度放射線治療ワークショップ(年3回・医師・技師・医学物理士6名参加)、また、私立長浜病院の医学物理士の臨床研修受け入れを実施。さらに海外の大学との国際交流プログラム(項目番号17)の実施により、チーム医療研修を推進している。</p> <p>三重大学：MDアンダーソンがんセンターで研修を受けた全国の医療チームを招聘して、三重県内のがん診療連携拠点病院の医療チームが参加するがんチーム医療ワークショップを開催する予定。</p> <p>滋賀医科大学：滋賀放射線治療連絡協会と連携し、滋賀放射線治療勉強会を実施した。</p>	<p>三重大学：平成25年9月に三重県がんチーム医療ワークショップを開催する予定で、現在、その準備を進めている。</p> <p>滋賀医科大学：参加人数43名</p>
29	地域医療機関等と連携した地域医療貢献への取組件数	<p>○ 5年間で地域医療機関等と連携した地域医療貢献への取組 230件を目標</p> <p>京都大学：京都大学では、京都府健康福祉部との連携により、24年度8件の研修会(緩和ケア研修会、ELNEC-J研修会、がん研修(大腸))を連携して実施。また、症例カンファレンスを地域の病院、クリニックと合同で毎週行っている。京都乳がんコンセンサス会議3回開催(各回とも参加人数80名(手術療法コース)、京都放射線腫瘍研究会の共賛(放射線・物理コース)、京都府薬剤師会との共催で、第1回地域がん医療を担う薬剤師養成インテンシブコースを開催した(平成25年2月16日、参加者144名)。(薬剤師)、婦人科コースでは、①婦人科手術化学療法研究会(H24/2/4、約50人)、②研修医・修練医のため産婦人科サマーセミナー(H24/7/7、約50人)、③温知会サマークリニカルフォーラム(H24/7/16、約50人)、④京都女性のヘルスケア研究会(H24/12/2、約30人)(婦人科)また、関連講座において、・前立腺がん検診に係る講習会、2012年7月26日、京都府医師会、112名</p> <p>・前立腺がん検診精密検査医療機関向け講習会、2012年9月13日、京都府医師会、25名、24年11月17日 第4回胸部腫瘍セミナー 約80人(福井赤十字病院、神戸市立医療センター中央市民病院、天理よろづ相談所病院)が実施された。</p> <p>三重大学：三重県内のがん診療連携拠点病院が中核となり、三重医療安心ネットワークを活用した地域連携の取り組みを進めている。</p> <p>滋賀医科大学：第8回滋賀県5大がん地域連携バス研修会を行い、地域医療における各医療機関との結びつきを強めた。滋賀県と協力し、国庫補助事業の「地域医療支援センター運営事業」を活用し滋賀県医師キャリアサポートセンターを設置し、地域の医療機関との連携を図っている。</p> <p>大阪医科大学：三島圏緩和ケア研修会の開催(平成24年11月17日・18日)</p>	<p>三重大学：三重医療安心ネットワークによる地域連携の取組件数は2816名に達している。 【看護師養成コース】三重県共催のがん看護研修(8名・40日間/年)を実施した。地域医療機関において、がん看護実習(1名)を実施した。また、三重県内のがん看護関連の認定看護師と専門看護師による合同勉強会(3回/年)を開催した。</p> <p>滋賀医科大学：第8回滋賀県5大がん地域連携バス研修会 参加人数81名 地域医療機関との合同カンファレンス 5回実施 159名参加 地域の医師を対象とした緩和ケアに関する研修：2回実施 106名参加 地域の医師を対象とした放射線・化学療法に関する研修：7回実施 348名参加 地域の医師を対象としたがんの早期診断に関する研修：3回実施 125名参加 2012年9月1日滋賀県医師キャリアサポートセンター開設</p> <p>大阪医科大学：1回</p>

30	市民公開講座等一般向け講演会の開催数	<p>○ 5年間での市民公開講座等一般向け講演会の開催 15件を目標</p> <p>京都大学：3月10日（日）「市民公開講座」（がん医療の最前線）を、京都市立大学との連携（他拠点連携）で実施（300名参加） 京都乳がん市民公開講座3回（手術・機器）</p> <p>三重大学：三重大学医学部附属病院がんセンター主催で津地区と津以外の地区で年2回、市民公開講座を開催している。</p> <p>滋賀医科大学：市民講座を行い、医療関係者でない方もがんについての情報を共有してもらうように努めた。また、滋賀県がん医療フォーラムの司会とパネリストとして、大学での取組みなどを紹介した。</p>	<p>京都大学：資料8（セミナー等一覧）のとおり</p> <p>三重大学：平成24年12月22日に志摩地方の阿児地区で放射線療法と緩和ケアをテーマにした市民公開講座を開催し、150名の参加者があった。平成25年3月2日に津地区で市民公開講座を予定しており、現在準備を進めている。</p> <p>滋賀医科大学：H24年度開催数計6回</p>
31	インテンシブ事業を活用した地域医療貢献の推進状況	<p>○ インテンシブ事業を活用した地域医療貢献の推進を目標</p> <p>京都大学：京大病院高精度放射線治療ワークショップ（3回：2012/6/9-10、9/22-23、2013/2/2-3）、大腸癌に関するチーム医療研修会（年6回・薬剤師・看護婦・医師72名参加）高度ながん研究・がんチーム医療を実践できるがん専門薬剤師（研究者）養成コースでは、京都府薬剤師会との共催で、第1回地域がん医療を担う薬剤師養成インテンシブコースを開催した（平成25年2月16日、参加者144名）。（薬剤師）</p> <p>三重大学：インテンシブコースのセミナーとしてがんチーム医療研究会を年2回、治療早期からの集学的緩和ケアを考える会を年1回開催し、地域の医療機関でがん診療に従事する多職種に参加を呼びかけている。</p> <p>滋賀医科大学：薬剤師・放射線コースのインテンシブセミナーの一環として、薬剤師を集めてのセミナー、放射線治療連絡協議会等を開催し、地域医療連携を強めている。</p>	<p>京都大学：資料7（インテンシブ地域貢献）のとおり</p> <p>三重大学：平成24年9月11日にがんチーム医療研究会を開催し、107名が参加し、11月16日に開催した治療早期からの集学的緩和ケアを考える会には40名が参加した。</p> <p>滋賀医科大学：地域の薬物療法を支える薬剤師養成コース：2回（合計280名） 地域の放射線治療を支える専門医養成コース：1回（43名）</p>
32	本事業概要等の発行、ホームページの充実への取組み状況	<p>○ 本事業概要等の発行、ホームページの充実を目標</p> <p>京都大学：パンフレット（概要）「次代を担うがん研究者・医療人養成プラン」を発行 HP 京都大学「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」を開設し、トビックスコーナーにおいてシンポジウム、フォーラム等の開催予定を掲載し広く社会への情報提供に努めている。</p> <p>三重大学：三重大学がんセンターのホームページ、年報に本事業の詳細な内容についての案内を掲載し、がんプロのパンフレットを作成し、がんプロ関連の講演会開催時に配布している。</p> <p>滋賀医科大学：附属病院腫瘍センターのホームページでがんプロなど本事業についての情報を組み込んでいる。定期的に情報をアップデートしている。</p> <p>大阪医科大学：大阪医科大学緩和ケアチームを通じて本取り組みを随時紹介。</p>	<p>京都大学：別添「パンフレット」 HP http://ganpro.med.kyoto-u.ac.jp/ 京都大学「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」</p>
33	県内でのがん対策の企画、立案への貢献の取組みについて	<p>○ 県内でのがん対策の企画、立案への貢献を目標</p> <p>京都大学：京都府がん対策推進協議会、京都府がん医療戦略推進会議、京都府がん対策推進府民会議への参加および、傘下の各部会活動に参加。（外来化学療法部会、地域連携部会、相談支援部会、緩和ケア部会、院内がん登録部会、研修部会） また、京都府医師会の子宮がん検診委員となっている。②近畿産婦人科学会の腫瘍研究部会の学術委員長および委員を選出している。（婦人科コース）</p> <p>三重大学：平成24年9月6日 11月6日、平成25年1月16日の計3回開催された三重県のがん対策戦略プラン策定検討部会に参加し、三重大学への緩和ケアセンター設置、地域がん登録の整備、医科歯科連携、放射線技師の不足、小児がん患者対策等に関して提案を行った。</p> <p>滋賀医科大学：滋賀県がん対策推進協議会委員として活動し、滋賀県がん対策基本計画（第2期）の作成に携わった。また、滋賀県がん診療連携協議会のすべての部会に職員を委員として派遣しており、県内のがん対策の実行を支援している。</p> <p>大阪医科大学：大阪府がん診療連携協議会・緩和ケア部会等での活動報告</p>	<p>三重大学：三重県のがん対策戦略プランの最終案がまとまり、本年3月に開催される三重県議会の承認を経て決定される予定である。</p>

34	I Tを用いた効率的な連携による地域完結型医療体制の構築の取組み	<p>○ I Tを用いた効率的な連携による地域完結型医療体制の構築を目標</p> <p>京都大学：関連施設と共同で共通のフォーマットでの院内診療データベースを運営しており、定期的にこれらのデータを集約している。また、診療支援を目的とした腋窩リンパ節転移予測モデル、術前化学療法の効果予測モデルを構築し、web上で利用可能なシステムを開発した。同システム上では、関連施設から前向きにデータを蓄積可能である。（手術療法コース）</p> <p>インターネットでアクセス可能なサーバーを構築・運用して、関連病院が京大放射線治療プロトコルを閲覧可能としている。（放射線コース）</p> <p>三重大学：三重県内のがん診療連携拠点病院が中核となり、周辺地域の医療機関とI DリンクによるI Tを活用した地域連携ネットワーク網の拡大を進めている。</p>	三重大学：三重県全体でI Tを用いた地域連携ネットワーク参加施設は143施設となっている
35	テレビ会議システムを用いた多職種カンファレンスにより、県内の医療の質向上への取組み	<p>○ テレビ会議システムを用いた多職種カンファレンスにより、県内の医療の質向上を目標</p> <p>京都大学：TVカンファレンスを3ヶ月一度程度行っている。（手術療法コース）</p> <p>三重大学：【看護師養成コース】県内医療機関5カ所を結び、解決困難な課題について、TVカンファレンス（5回/年）を行った</p>	三重大学：TVカンファレンス（5回/年）を実施。
36	がん医療に関係する企業等との共催・連携推進の取組み	<p>○ がん医療に関係する企業等との共催・連携推進を目標</p> <p>京都大学：各コースにおいては、CK プロジェクト、島津製作所との共同研究プロジェクト、DSKプロジェクトなどを通して産学連携の中での教育を行っている。（手術療法コース）</p> <p>最先端研究開発支援プログラム 分子標的放射線治療への参画（放射線コース）</p> <p>①産婦人科手術・化学療法研究会(H24/2/4、島居薬品)、②京都婦人科腫瘍フォーラム(H24/10/19、ヤクルト)、③関西婦人科腫瘍懇話会(H24/11/12、大鵬薬品)、④京都女性のヘルスケア研究会(H24/12/2、久光製薬)（婦人科コース）、第5回京都がんリハビリテーション研究会（企業共催）を開催(リハビリコース)</p> <p>また、関連講座において、第65回日本胸部外科学会定期学術集会 ランチョンセミナー 肺がん手術の最前線～困難症例に対する我々の取り組み～ 約300人（ジョンソンエンドジョンソン株式会社）平成24年10月18日、第7回 Meet the Hematologists 共催：協和発酵キリン 参加者数：120名、日付：平成24年7月7日、京滋血液腫瘍感染症研究会 共催：ヤンセンファーマー 参加者数：40名、日付：平成24年10月26日、第55回同種造血細胞移植問題症例を考える会 共催：協和発酵キリン 参加者数：30名、日付：平成24年11月2日、第1回 京都血液若手セミナー 共催：中外製薬 参加者数：50名、日付：平成24年11月3日、第2回 京都血液若手セミナー 共催：武田薬品工業 ヤンセンファーマー 参加者数：50名 日付：平成25年2月2日、Kyoto Colorectal Symposium（ヤクルト）300名、産学連携事業；MDV3100開発治験（アステラス製薬）、Cabazitaxel開発治験（サノフィアベンティス）、・膀胱癌におけるマーカーとしてのCXCL1（シオノギ製薬）、・腎細胞癌のマーカーとしてのPD1およびPD-L1（シスメックス）、・前立腺癌の新規治療標的としてのEP4（小野薬品）、・泌尿器癌手術のシミュレーション技術開発（キャノン）、・The Best of AUA in Japan 2012（アステラス製薬、約100名）、・第31回泌尿器科手術研究会（アステラス製薬、約160名）、</p> <p>・前立腺癌Expert Meeting（アステラス製薬、約20名）、・第232～236回泌尿器科マンスリーミーティング（バイエル薬品、約50名）、・Urologic Oncology Forum</p> <p>三重大学：製薬企業と共催・連携してがん関連のセミナー、講演会を開催している。</p> <p>滋賀医科大学：各製薬会社と共催して、セミナー等を実施した。</p>	三重大学：平成24年度は、既に10回開催しており、今後さらに2回開催を予定している。 <p>滋賀医科大学：製薬会社等、共催セミナー数：全13回中8回</p>
37	コース履修者が関与したプロトコル（臨床研究実施計画書等）作成件数	<p>○ 5年間のプロトコル（臨床研究実施計画書等）作成 50件を目標</p> <p>京都大学：27件 資料11（プロトコル作成への関与状況一覧）のとおり</p> <p>滋賀医科大学：コース主催の研修会受講者により新規レジメンが30レジメン登録された。</p> <p>京都薬科大学：5件</p>	京都大学：資料11（プロトコル作成への関与状況一覧）のとおり <p>滋賀医科大学：コース主催の研修会受講者により新規レジメンが30レジメン登録された。</p>

38	国際学会、英文誌への研究論文発表数	<p>○ 5年間の国際学会、英文誌への研究論文発表 100件を目標</p> <p>京都大学：23件 資料9（国際学会・英文誌への論文発表一覧のとおり）</p> <p>三重大学：国際学会、英文誌への研究発表に関しては、各コースのコーディネーター、関連する診療科が指導、教育を進めている。</p> <p>滋賀医科大学：英語で研究成果をまとめ、研究論文を、定期的に提出させている。</p> <p>大阪医科大学：がん手術療法専門医養成コース2名について、第48回日本周産期・新生児医学会学術集会、第52回日本産婦人科腫瘍学会学術講演会、第52回日本産科婦人科内視鏡学会、The 13th Japanese Society for Advancement of Women's Imaging、第35回日本産婦人科手術学会、第53回日本臨床細胞学会総会、第126回近畿産科婦人科学会総会・学術集会において発表。</p>	<p>京都大学：資料9（国際学会・英文誌への論文発表一覧のとおり）23件</p> <p>滋賀医科大学：新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース履修者1名が論文発表に向け、中間発表を日本癌学会で行った。</p> <p>大阪医科大学：8回</p>
39	学会への研究論文の発表推進への取り組み	<p>○ 学会への研究論文の発表推進を目標</p> <p>京都大学：「24年度 がんプロ養成管理委員会」において、国際的視野を有した研究者養成のため、国際学会での発表に積極的に参加させるとともに、国内においても研究成果を発表させるため国内学会への積極的な参加を推進するための旅費を予算化し発表推進への体制を構築させた。</p> <p>三重大学：学会への研究論文の発表に関しては、各コースのコーディネーターが責任を持って指導、教育に当たっている。</p> <p>滋賀医科大学：年一回学会での研究成果発表を行い、研究成果をまとめ、研究論文の発表を推進している。</p> <p>大阪医科大学：学会への研究論文発表の指導を行っている。</p> <p>京都薬科大学：学会への研究論文発表に向けて指導に努めている。</p>	<p>京都大学：資料9 「国際学会、英文誌への論文発表一覧」のとおり 23件 資料12 「国内学会誌、和文雑誌への論文発表一覧」のとおり 36件</p> <p>三重大学：【看護師要せコース】院生1名が、日本がん看護学会学術集会において発表した。</p> <p>滋賀医科大学：新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース履修者1名が論文発表に向け、中間発表を日本癌学会で行った。</p>
40	先進的な海外研究機関等への研修派遣、国際学会等への参加数	<p>○ 5年間の海外の先進的な研究機関等への研修派遣、国際学会等への参加 60人を目標</p> <p>京都大学：26件 資料10「がんプロ学生海外派遣一覧」のとおり、「がんプロ学生国内派遣一覧」（参考）</p> <p>三重大学：先進的な海外研究機関等への研修 派遣、国際学会等への参加に関しては、関連する診療科で検討されており、各コースのコーディネーターがサポートする体制になっている。</p> <p>滋賀医科大学：海外研究機関への研修派遣、国際学会への参加を促し、研修、学会発表の際には旅費支援をしている。</p> <p>大阪医科大学：1名参加、2013 ASCO-GI Moscone West Building, San Francisco, California, U.S.A</p>	<p>京都大学：資料10「がんプロ学生海外派遣一覧」 「がんプロ学生国内派遣一覧」（参考）</p>

41	がんプロ大学院生が国内外学会、研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み状況	<p>○ がんプロ大学院生が国内外学会、研究機関等へ研修する場合のサポート体制の整備を目標</p> <p>京都大学：「24年度 がんプロ養成管理委員会」において、研究成果を発表させるため国内学会への積極的な参加を推進するとともに、横断的・専門的教育の実施知識を得るための旅費を予算化し発表推進への体制を構築させた。</p> <p>また、各コースにおいても、国内学会ではfirst authorの時はコース費用にて負担。各種、研修会にも積極的な参加を促した。（物理コース）、がん関連の学会に積極的に派遣し、情報収集を行わせている。（2012年4月第9回呼吸ケアカンファレンス（神戸）2012年5月第47回日本理学療法学会学術大会（神戸）2012年6月第66回日本食道学会学術集会（長野）2012年7月第10回臨床腫瘍学会学術集会（大阪）2012年10月第50回癌治療学会（横浜）2013年1月第2回がんのリハビリテーション懇話会（東京）、第17回日本緩和医療学会、日本サイオンコロジー学会など）（リハビリコース）、</p> <p>三重大学：がんプロ大学院生の国内外学会出張に対しては、交通費等の経済的支援を行っている。</p> <p>滋賀医科大学：がんプロコースに在籍する大学院生が学会等に行く場合、旅費等の必要経費はがんプロの経費から支払い、負担がかからないようにしている。また、がんプロコース学生が研究生生活を安定的に送るための競争的奨学金の取得を支援している。</p> <p>京都薬科大学：各履修者が京大病院や滋賀医大病院薬剤部にて薬剤師実務および臨床研究に関する研修を受けている。</p>	<p>滋賀医科大学：新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース在籍の大学院生2名は、すでに国内の財団から奨学金支給を受けている。</p>
42	がん研究基盤の発展構築に向けた取組み状況	<p>○ がん研究基盤の発展構築を目標</p> <p>京都大学：京都大学においては、「マルチモダリティ3次元モニタリング・シミュレーションシステム」、「手術ナビゲーションシステム」、「モニターテレビ」、「パソコン」等の新規設備を購入し、がん研究基盤の発展構築へ向けた取組みを推進させている。</p> <p>また、新設された「腫瘍薬物治療学講座（分野）」では、がんプロ経費にて12月より新規助教を採用、発展構築へ向けた取組みが進められている。</p> <p>また、各コースにおいても、新規研究機器の購入、イメージング、数理学的研究の導入等、学際的研究活動の環境を整備している。集学的研究、他部門、他施設との共同研究を実施しやすい環境基盤の整備を行っている。（手術療法コース）</p> <p>がん化学療法に用いる薬物の血中濃度測定に必要な分析機器の導入を進めている。（薬剤師コース）</p> <p>①卵巣明細胞腺癌の発生、代謝、ゲノムワイドな遺伝子発現に関する研究を行っている。②子宮頸癌の腫瘍と間質のinteractionががんの浸潤に及ぼす役割を調べている。③子宮体部漿液性腺癌の生物学的な特徴を調べ、治療法開発に向けた研究を行っている。④化学療法ががん免疫に与える影響について研究している。（婦人科コース）</p> <p>さらに、関連講座においても、冠動脈疾患合併肺癌における至適周期管理に関する研究（平成24年7月17日発足）作業部会設置、多施設共同の臨床研究の枠組みの構築、患者検体保存の体制の整備、StageIV胃癌に対する3剤併用の術前化学療法phaseII（単施設）、stageII, III胃癌の術前化学療法phaseII study（多施設共同）、StageII, III胃癌術後に漢方薬を付加することによる化学療法完遂率向上phaseII、直腸癌に対する術前化学療法phaseII（多施設共同）。関係病院間（7施設）での大腸癌登録システムを構築中。質量分析装置を応用した前立腺癌診断のための新たな尿中分子マーカーの探索、次世代シーケンサーを用いた腎細胞癌発生の分子機構に関する全ゲノム、エクソーム解析、患者由来ヒト泌尿器科癌組織(PDIT)を用いたマウス異種移植モデルによる新規治療標的の探索、泌尿器癌基礎研究の発展的展開、新規技術導入の研究基盤の発展構築へ向けた取組みが行われている。</p> <p>三重大学：ラジオ波治療、凍結療法後の宿主の免疫能解析に関して、臨床、基礎が連携した研究基盤の構築を進めている。また、平成24年11月1日と平成25年1月22日に臨床、基礎の代表者からなる検討会を開催した。</p> <p>滋賀医科大学：滋賀医科大学では、最先端の機器を購入し、がんプロコースに在籍する大</p> <p>京都薬科大学：他大学、海外製薬企業との共同研究や、国内の短期留学を推進している。</p>	

43	新たながん医療分野の開拓推進に向けた取り組み状況	<p>○ 新たながん医療分野の開拓推進を目標</p> <p>京都大学：各コースにおいて、国際共同研究、産学連携研究、多施設共同研究を行い、院生がそこに参加し、新しいがん医療分野の開拓を目指した研究を遂行できるように、環境を整えている。(手術療法コース)、がん化学療法の個別化を目的とした遺伝子多型解析やバイオマーカー探索を進めている。(薬剤師コース)、①ゲノムワイドな遺伝子発現データをもとに、がん医療の個別化をはかることを目指している。②がん免疫を賦活させる、免疫療法の臨床試験を行っている。(婦人科コース)の取組みが行われ、関連講座においても、H24臨研推 一般009 医療技術実用化総合研究事業 「非扁平上皮非小細胞肺癌に対するペメトレキセドを用いた術後補助化学療法」班での臨床試験(JIPANG試験)への参加、希少症患者への積極的な治療介入、・JCOG泌尿器癌グループ共同臨床研究参加(JCOG0401, JCOG1019, JCOG1110-A) ・前立腺癌骨転移症例に対する新規治療戦略の開発に関する多施設共同第三相ランダム化比較試験を主研究機関として実施中(ZAPCA試験) ・膀胱癌の尿中マーカーとしてのCXCL-1の意義に関する多施設共同研究を主研究機関として実施中 ・がん免疫療法の分子マーカーPD1、PD-L1発現確認法開発、・限局性あるいは局所浸潤性前立腺癌根治治療後の生化学再発に対する代替補充療法に関する多施設共同研究を主研究機関として実施中、・進行性腎細胞癌に対する分子標的療法に関する多施設共同研究参加(J-ACTOR試験、CROSS-J試験、JRTCG試験)、・去勢抵抗性前立腺癌に対するドセタキセルを使用した化学療法に関する多施設共同研究参加(JMTO PCa10-01試験)などの新たな医療分野の開拓へ向けた取組みが行われている。</p> <p>三重大学：がんワクチン、がん遺伝子治療の臨床試験を行っている。肝臓がんだけでなく、肺がん、腎臓がんに対するラジオ波治療、凍結療法を先進医療として行っている。乳がんを中心とした遺伝子診断を行っている。</p> <p>滋賀医科大学：産業技術の幅広い分野において、様々な技術開発を総合的にを行っている、日本最大級の研究機関である産業技術総合研究所から講師を招き、最先端の技術を紹介してもらった。附属病院での新たな創薬に向けて、腫瘍内科においてがんペプチドワクチン療法の医師主導型臨床試験を実施している。</p> <p>京都薬科大学：一般病院の薬剤師、医師と広く交流し、現場の問題点を解決し、創薬、育薬を中心とした新たな治療法開発を目指している。</p>	<p>三重大学：がんワクチン、がん遺伝子治療の臨床試験のエントリー数が着実に増加しており、ラジオ波、凍結療法、遺伝子診断の件数も増加している。</p> <p>滋賀医科大学：</p> <p>京都薬科大学：市中病院から、既存薬の新規投与方法の開発(育薬)の共同研究依頼を受け、現在計画中。</p>
----	--------------------------	--	---

「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」入学目標人数・入学者数一覧

	コースを開設している大学・研究科・専攻名	コース名	修業年限	養成する専門分野	学生が所属する大学名	募集人員					受入目標人数					H24実績 入学		
						H24	H25	H26	H27	H28	H24	H25	H26	H27	H28			
						計												
①がん教育改革によるがん専門医療人に重点を置くコース	計					20	4	4	4	4	4	25	3	3	3	3	3	4
	三重大学医学系研究科生命医科学専攻	放射線腫瘍医養成コース	4年	放射線治療医	三重大学	5	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	1
	三重大学医学系研究科生命医科学専攻	乳腺外科専門医養成コース	4年	外科系乳腺専門医	三重大学	10	2	2	2	2	2	5	1	1	1	1	1	2
	三重大学医学系研究科生命医科学専攻	がん専門薬剤師養成コース	4年	がん専門薬剤師	三重大学	5	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	1
②地域がん医療に貢献するがん専門医療人に重点を置くコース	計					62	10	13	13	13	13	59	9	12	12	13	13	8
	三重大学医学系研究科生命医科学専攻	腫瘍内科専門医養成コース	4年	腫瘍内科医	三重大学	5	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	0
	三重大学医学系研究科生命医科学専攻	婦人科がん治療専門医養成コース	4年	婦人科腫瘍専門医	三重大学	10	2	2	2	2	2	7	1	1	1	2	2	0
	滋賀医科大学医学系研究科再生・腫瘍解析系専攻	地域の放射線治療を支える専門医養成コース	4年	放射線治療医	滋賀医科大学	5	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	1
	大阪医科大学医学研究科医学専攻	化学療法専門医養成コース	4年	がん薬物療法	大阪医科大学	9	1	2	2	2	2	9	1	2	2	2	2	1
	大阪医科大学医学研究科医学専攻	放射線療法専門医養成コース	4年	放射線治療	大阪医科大学	9	1	2	2	2	2	9	1	2	2	2	2	1
	大阪医科大学医学研究科医学専攻	がん手術療法専門医養成コース	4年	がん治療	大阪医科大学	9	1	2	2	2	2	9	1	2	2	2	2	1
	三重大学医学系研究科看護学専攻	チーム医療を促進するがん看護を専門とする看護師養成コース	2年	がん看護	三重大学	10	2	2	2	2	2	10	2	2	2	2	2	3
滋賀医科大学医学系研究科再生・腫瘍解析系専攻	地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース	4年	薬剤師	滋賀医科大学	5	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	1	
③がん研究者養成に重点を置くコース	計					128	20	27	27	28	26	104	16	20	23	24	21	42
	京都大学医学研究科医学専攻	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	4年	がん薬物療法学	京都大学	20	3	4	4	5	4	15	2	3	3	4	3	12
	京都大学医学研究科医学専攻	先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	4年	放射線治療医	京都大学	23	3	5	5	5	5	22	3	4	5	5	5	3
	京都大学医学研究科医学専攻	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	4年	外科医、泌尿器	京都大学	18	3	4	4	4	3	15	2	3	4	4	2	11
	京都大学医学研究科医学専攻	新しい婦人科がん治療の開発を担う研究者養成コース	4年	婦人科腫瘍専門医	京都大学	10	2	2	2	2	2	8	1	1	2	2	2	2
	京都大学医学研究科医学専攻	高度ながん研究・がんチーム医療を実践できるがん専門薬剤師(研究者)養成コース	4年	薬剤師	京都大学	10	2	2	2	2	2	5	1	1	1	1	1	2
	京都大学医学研究科医学専攻	先端医学物理研究者養成コース	4年	医学物理	京都大学	9	1	2	2	2	2	9	1	2	2	2	2	1
	京都大学工学研究科原子核工学専攻		3~5年															
	京都大学医学研究科人間健康科学専攻	新しいがんリハビリテーション法の開発を担う研究者養成コース	2年 3年	がんリハビリテーションを専門とする理学療法士・作業療法士、医師	京都大学	10	2	2	2	2	2	10	2	2	2	2	2	3
	滋賀医科大学医学系研究科再生・腫瘍解析系専攻	新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース	4年	がん研究医・がん研究者	滋賀医科大学	9	1	2	2	2	2	5	1	1	1	1	1	2
	滋賀医科大学医学系研究科再生・腫瘍解析系専攻	新しい外科医療開発・応用を担う研究者養成コース	4年	外科医療研究医・外科専門医	滋賀医科大学	9	1	2	2	2	2	5	1	1	1	1	1	3
	京都薬科大学大学院薬学研究科薬学専攻	がん薬物療法を専門とする薬学研究者養成コース	4年	臨床腫瘍薬学	京都薬科大学	10	2	2	2	2	2	10	2	2	2	2	2	3

24年度入学人員（全国平均・京大グループ）

京大グループ

	募集人員	受入目標人員	入学人員	受入目標に対する入学率
がん教育改革・がん専門医療人養成	4	3	4	133.33%
地域がん医療・がん専門医療人養成	10	9	5	55.55%
がん研究者養成	20	16	36	225.00%
	34	28	45	160.71%

全国平均

	募集人員	受入目標人員	入学人員	受入目標に対する入学率
がん教育改革・がん専門医療人養成	268	193	209	108.29%
地域がん医療・がん専門医療人養成	74	64	19	29.68%
がん研究者養成	134	97	117	120.61%
	476	354	345	97.45%

がんプロ学生調査(要望・改善点)

※ 特に無しの回答については、省略

項目	今後のがんプロへの要望等がありましたら記載下さい。	コース名
要望	学会・研究会への参加、視察などにかかわる経費を出していただけるのは大変ありがたいと思っています。	手術療法・機器 開発
要望	癌治療研究に必要な統計について具体的なデータを使った実習などがあるとうれしい。	先端的放射線 治療開発
要望	がんのリハビリテーションの臨床に関わる機会が皆無でしたので、臨床に出る機会、ビデオや見学でもいいので患者さんを診る機会を作っていただきたいと思います。また、臨床との交渉から研究の実施まで一人で行くと研究にかなりの制限が生じ、結果として研究の質を落として計画せざるを得なかったため、今後関西がんプロのネットワークを用いて共同研究を行う体制ができていったらよりよいのではないかと思います。	がんリハビリテ ーション法の 開発
要望	海外研修の機会を積極的に与えて頂きたいと思います。	先端医学物理 研究者養成
要望	海外旅費を助成いただき、大変感謝しております。 今年は4月にスイスで国際学会が開催されるので、旅費申請の受付を早期から開始して頂けますと幸いです。	先端医学物理 研究者養成
要望	臨床研究の計画・実施に関する包括的な講義など。臨床統計学など。	先端的放射線 治療開発
要望	国内学会、国際学会への旅費援助など大変助かっております。今後とも勉学のため援助いただけますと幸いです。	先端医学物理 研究者養成
要望	リハビリテーション科学系専攻の学生は、がん治療について学ぶ機会がありますが、がんのリハビリテーションを学ぶ機会がありません。専門資格はありませんが、がんのリハビリテーションの授業など、配慮いただければと思います。	がんリハビリテ ーション法の 開発
要望	本年度は研究業務のため積極的な参加ができませんでした。来年度は合間を見つけて参加できるよう心がけていきたいと考えています。	抗悪性腫瘍薬 臨床開発
要望	現在は研究としてがん患者さんに関わらせていただく機会はありますが、がんリハビリテーションの臨床としての機会はほとんどありません。そのため、もう少しがんリハビリテーションなどの臨床に実際に携われるような制度を作っていただければ非常に有難く思います。	がんリハビリテ ーション法の 開発

要望	<p>国際学会、国内学会の旅費援助は大変ありがたく存じます。</p> <p>改善点としては、年度内に何回募集するのか、また、募集期間はいつなのかを予め年度初めに年間予定をご教示いただくと大変有意義なのではないかと感じました。</p> <p>また、個人の業績や資格等の状況確認に関して、重複する内容にて複数回依頼がありました。毎回違うformatのエクセルを送付しデータを収集するのではなく、個人に対して1つのエクセルフォーマットを作成しそこに、年度毎に情報を追記していく形にすれば記入する側、管理する側の負担減になるかと思います。</p>	先端医学物理 研究者養成
要望	<p>国内・国際学会への研修旅費助成では大変お世話になっております。</p> <p>大変貴重な経験となりますので、今後とも継続的なご支援をいただければ幸いです。</p> <p>コース履修者を対象とした研究費の助成等があれば、将来的に必須となる研究費申請の良い訓練にもなり、研究遂行の援助にもなると思いました。</p> <p>優秀論文に対する研究助成等も良いモチベーションになるかと存じます。</p> <p>ご検討いただければ幸いです。</p>	先端医学物理 研究者養成
要望	<p>がん化学療法専門医受験に向けたカリキュラムの策定をお願いいたします。</p>	抗悪性腫瘍薬 臨床開発
要望	<p>ビデオ配信講義で専門分野以外のものも勉強させていただきました。ただ現実の都合のこともあり、出席必須という形態のものはいかがでしょうか。。</p>	抗悪性腫瘍薬 臨床開発
要望	<p>共同研究への参加の橋渡しなどができれば良いのではないのでしょうか。</p>	抗悪性腫瘍薬 臨床開発
要望	<p>学外で研究しているものについては学内研究会への参加などについては考慮してほしい。</p>	手術療法・機器 開発

新講座設置計画

大学名	名称	分類	目的	体制	総計	専任					兼任					設置予定年月	
						計	教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教		
京都大学	京都大学大学院 医学研究科医学 専攻腫瘍薬物治 療学分野	化学療法	1)化学療法を中心とした高度ながん治療を展開する 2)化学療法を中心とした新しいがん医療の開発研究を推進する化学療法を中心とした優れたがん医療の専門医を養成する	教授1(専任)、講師1(専任)、助教3(専任)	5	5	1		1	3	0						平成24年9月
三重大学	三重大学大学院 医学系研究科生 命医科学専攻放 射線腫瘍学講座	放射線療法	医学部、大学院での放射線治療の教育を充実させることにより、放射線治療医の育成を強化し、三重県の放射線治療レベルの向上に貢献することを目的とする。	教授1名(専任)、助教1名(兼任)	2	1	1				1						平成24年4月
滋賀医科大学	臨床腫瘍学講座	その他	最新のがん薬物療法を促進するとともに、がんの予防、診断、治療の面から高度先進がん医療の研究・臨床展開と教育を通じたがん専門医・医療スタッフの育成を推進し、社会に貢献する。	教授(専任)1名、講師(専任)2名、助教(専任)1名	4	4	1		2	1	0						平成24年10月

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
平成24年度 第2回 事業推進運営委員会 議事録

日 時：平成24年12月21日（金）10時30分～13時00分

場 所：京都大学 芝蘭会館別館2F会議室（京都大学医学研究科北側）

協議事項

1) 外部評価の実施について

千葉事業推進委員長より「24年度外部評価」について、別添資料1により、書面による外部評価、評価委員の選出（案）、評価日程（案）について、また、評価項目（案）についての説明が行われ、（案）に基づき外部評価を実施することが承認された。

確認・報告事項

1) 「全国版Eラーニングクラウド」への参加について

資料2「全国版Eラーニングクラウド」により、京都大学の基本方針が説明され、各大学へのEラーニング講義提供の協力が依頼された。

2) 11/16 近畿大学拠点シンポジウム参加報告について

資料3により、11/16に開催された「近畿大学拠点シンポジウム」に、京大より千葉、大阪医科大より後藤が出席したことが報告され、同シンポジウムでの福岡大教授・日本臨床腫瘍学会理事長 田村和夫先生による講演内容が報告された。

3) 1/30 全国がんプロ・合同フォーラムの参加について

合同フォーラムでは、「ポスター発表」および「緩和医療フォーラム」が予定されており、ポスター発表には、京都大学、滋賀医科大学、「緩和医療フォーラム」には、三重大学が参加することが確認された。

4) 京大HPの積極的な活用について

各大学において実施される「シンポジウム」、「フォーラム」は、自大学HPおよび京都大学がんプロHPを積極的に活用することが確認された。

5) シンポジウム、研究会開催における連携大学との共催促進について

各大学が開催する「シンポジウム」、「フォーラム」、「研究会」において、共催することができるものについては、共催を推進させることが確認された。

6) 25年度予算配分方針について

25年度の配分計画については、24年度の配分率をもって配分することを基本とすることが確認された。

7) その他

京都大学では、国際的視野を持った研究者の養成にも重点を置いているところで、また、5大学連携という意味からも大学間・職種間を超えたチームとして海外がん研究施設等への教員・学生派遣を考えているので、派遣したい教員・学生、希望する海外施設等があれば申し出ていただきたい。

(別添資料 1)

平成24年度《次代を担う研究者・医療人養成プラン》外部評価について

1. 外部評価の実施について

- ・ 24年度 外部評価は、評価委員による書面評価とする。
- ・ 評価委員については、3名の委員を選任する。
- ・ 外部評価項目については、事業評価ガイドライン(24.3.29 文科省 養成推進委員会)の評価項目、今回、設定された「個性や特色、得意分野に応じた各グループ固有の達成目標」及び、事業申請書に記載のあった達成目標とする。

1. 評価項目について

別添「達成目標・24年度取組状況等」(案)のとおり

2. 評価委員の選出について

青森県立中央病院 院長 吉田茂昭
名古屋大学 附属病院化学療法部部長 安藤雄一教授
国際科学ジャーナリスト(元京都新聞記者)川端真一

3. 評価実施日程について

24.1.24～2.15	評価項目に対する各コースへの実績調査		
24.2.16～2.28	がんプロ担当者による、評価委員への評価資料とりまとめ		
24.3.8	評価委員へ評価資料を送付	24.3.11～3.25	評価委員による評価

実施(評価項目毎の採点および講評)

24.4～	評価報告書のHP公表等		
-------	-------------	--	--

がん治療体制

	がん種	メンバーの診療科名	メンバー職名・職種 (◎:リーダー)	内容	新規治療開始患者のうち検討症例の割合	
1	前立腺がん ユニットカンファレンス	前立腺がん	放射線科 泌尿器科	◎泌尿器科医、放射線治療医、看護師	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
2	脳腫瘍ユニットカンファレンス	脳腫瘍	脳神経外科 放射線治療科 小児科	◎脳神経外科医 放射線治療医 小児科医 看護師	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
3	乳がんユニットカンファレンス	乳がん	乳腺外科 腫瘍内科 放射線診断科 病理科	◎乳腺外科医 乳腺外科部長 腫瘍内科医 放射線診断医 病理医	新規、継続治療患者の治療並びに診断の標準化を行う。	75-100%
4	食道がんユニットカンファレンス	食道がん	消化管外科 放射線治療科 消化器内科 耳鼻咽喉科	◎消化器内科医、消化管外科医、放射線治療医、耳鼻科医、理学療法士	新規治療開始患者および再発患者の治療方針の検討および経過報告をする。	全例実施
5	肺がんユニットカンファレンス	肺がん(一部良性疾患)	呼吸器内科 呼吸器外科 放射線治療科 放射線診断科	◎呼吸器内科助教、呼吸器内科医、呼吸器外科医、放射線治療科医、放射線診断医	集学的治療を要する患者の治療方針検討、他科への治療依頼、治療難渋例についてのディスカッション	25%未満実施
6	膵がんユニットカンファレンス	膵がん	内科 放射線科 外科	◎肝胆膵腫瘍外科医、腫瘍内科医、放射線治療医、放射線診断医、消化器内科医、消化器外科医、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
7	頭頸部がんユニットカンファレンス	頭頸部がん	耳鼻咽喉科 放射線治療科	◎耳鼻咽喉科副部長、耳鼻咽喉科医、放射線治療医	新規患者の検討をする。	全例実施

8	胃がん・GIST	胃がん GIST	消化管外科 消化器内科 腫瘍内科 放射線治療科	◎腫瘍内科医、消化管外科医、消化器内科医、放射線治療医	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	75%以上 100%未満
9	大腸がん	大腸がん	消化管外科 肝胆膵外科 消化器内科 腫瘍内科 放射線治療科	◎腫瘍内科医、消化管外科医、肝胆膵外科医、消化器内科医、放射線治療医	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	75%以上 100%未満
10	小児がんユニットカンファレンス	各種小児がん、骨・軟部腫瘍	小児科、整形外科、小児外科、放射線治療科・病理診断科、呼吸器外科、泌尿器科、耳鼻科、眼科	◎小児科医、整形外科医、小児外科医、放射線治療医、病理診断科医、呼吸器外科医、泌尿器科医、耳鼻科医、眼科医	新規治療開始患者、治療中患者の治療方針決定および経過報告をする。	全例実施
11	原発不明・希少がん	原発不明癌 希少癌	血液内科 小児科 肝胆膵移植外科 呼吸器内科 消化管外科 乳腺外科 消化器内科 腫瘍内科 整形外科 婦人科 放射線治療科 放射線診断科 病理	◎腫瘍内科医、血液内科医、小児科医、肝胆膵移植外科医、呼吸器内科医、消化管外科医、乳腺外科医、消化器内科医、整形外科医、婦人科医、放射線治療医、放射線診断医、病理医	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	75%以上 100%未満
12	がんサポートチームカンファレンス	全種	精神科 放射線治療科	◎精神科医、外来化学療法部長、放射線治療医、看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、理学療法士、緩和ケア医	新規依頼患者および継続診察患者の支援方針の検討および経過報告をする。	全例実施

平成 24 年度 インテンシブコース地域貢献

外来がん化学療法チーム養成コース(インテンシブ)

12/04/24	消化管外科腫瘍学セミナー-Special Oncology Seminar for Cancer がん免疫療法の現状と今後の展望(40)
12/05/17	第 5 回京都のがん薬物療法を熱く語る会(60)
12/06/12	消化管外科腫瘍学セミナー「Special Oncology Seminar for Cancer」(25)
12/07/09	標的治療腫瘍学講座「抗癌剤 Phase I 試験に参加するために ～企業からの提案～」(57)
12/10/16	大腸癌に関するチーム医療研修会(12)
12/10/17	
12/11/06	大腸癌に関するチーム医療研修会(12)
12/11/07	
12/11/27	大腸癌に関するチーム医療研修会(12)
12/11/28	
12/12/18	大腸癌に関するチーム医療研修会(12)
12/12/19	
13/01/22	大腸癌に関するチーム医療研修会(12)
13/01/23	
13/02/19	大腸癌に関するチーム医療研修会(12)
13/02/20	

高精度放射線治療を担う人材養成コース(インテンシブ)

12/06/9-06/10	高精度放射線治療ワークショップ(2)
12/09/15	第 34 回 京都放射線腫瘍研究会プログラム(110)
12/9/22-9/23	高精度放射線治療ワークショップ(2)
13/2/2-2/3	高精度放射線治療ワークショップ(2)
13/03/09	第35回京都放射線腫瘍研究会プログラム

薬学研究科薬学専攻地域がん医療を担う薬剤師養成コース(インテンシブ)

12/11/17	京大医療薬剤学研究会(145)
13/02/16	第1回地域がん医療を担う薬剤師養成インテンシブコース(170)

セミナー等一覧

18. 海外の研究者を講師とする講演

- 2012/4/10 婦人科腫瘍学セミナー2012-01 参加者 30 名
 2012/5/29 婦人科腫瘍学セミナー 参加者 40 名
 2013/3/19 Meet The Experts ～VEGF Meeting～

21. 連携5大学によるシンポジウム等

- 2012/4/15 第3回腫瘍内科医会セミナー 参加者 150 名
 2012/11/24 「がんリハビリテーション」特別講演会 参加者 28 名
 2012/12/21 平成24年度医療フォーラム 参加者 118 名
 2013/2/1 「がんリハビリテーション」特別講演会 参加者 19 名
 2013/2/16 第1回地域がん医療を担う薬剤師養成インテンシブコース 参加者 170 名
 2013/3/1 MIE Medical Oncology Seminar Series
 2013/3/10 市民公開講座

12. 29. 地域医療機関等と連携した講演会等

- 2012/4/24 消化管外科腫瘍学セミナー 参加者 40 名
 2012/6/12 消化管外科腫瘍学セミナー 参加者 25 名
 2012/9/15 第34回京都放射線腫瘍研究会プログラム 参加者 110 名
 2012/11/29 第6回京都のがん薬物療法を熱く語る会 参加者 58 名、
 2013/2/23 第6回乳がん市民公開講座 参加者 172 名
 2013/3/9 第35回京都放射線腫瘍研究会プログラム
 2013/3/10 市民公開講座
 2013/3/19 Meet The Experts ～VEGF Meeting～

36. 企業等と連携した講演会等

- 2012/5/17 第5回京都のがん薬物療法を熱く語る会 参加者 60 名
 2012/6/30 第5回京都在がんリハビリテーション研究会 参加者 11 名
 2012/7/9 標的治療腫瘍学講座 参加者 57 名
 2012/7/14 第4回乳がん市民公開講座 参加者 148 名
 2012/9/15 第34回京都放射線腫瘍研究会プログラム 参加者 110 名
 2012/9/28 京都在がん研究会 参加者 30 名
 2012/11/6 手術療法・機器開発コース講演会 参加者 30 名
 2012/11/29 第6回京都のがん薬物療法を熱く語る会 参加者 58 名

2013/2/2 第 13 回産婦人科手術・化学療法研究会 130 名
2013/2/23 第 6 回乳がん市民公開講座 参加者 172 名
2013/3/1 MIE Medical Oncologu Seminar Series
2013/3/9 第 35 回京都放射線腫瘍研究会プログラム
2013/3/19 Meet The Experts ～VEGF Meeting～

13. 一般向け講演会

2012/7/14 第 4 回乳がん市民公開講座 参加者 148 名
2012/10/14 第 5 回乳がん市民公開講座 参加者 150 名
2013/2/23 第 6 回乳がん市民公開講座 参加者 172 名
2013/3/10 市民公開講座

その他

2012/7/13 Strategies of stem cell self-renewal: from maintenance to cancer
2012/7/13 Towards single molecule systems biology
2012/10/22 KRAB'nKAP: From controlling endogenous retroelements to supporting the replication dynamics of human viral pathogenesis
2012/11/1 Dynamics of HTLV-1 replication in vivo
2012/11/16 発がん性足場タンパク質としてのピロリ菌 CagA の構造と機能
2012/12/7 ROCO ファミリーキナーゼ LRRK1 による EGFR 細胞内トラフィック制御/ROCO family kinase LRRK1 regulates endosomal trafficking of the EGF receptor、2013/1/23 What Constitutes a Protective HLA Class I Genotype in HTLV-1 Infection

国際学会、英文誌への論文発表一覧

1:

54th Annual Meeting of the American Society of Hematology; "Serum Neutrophil Extracellular Traps (NETs) Are a Potential Predictive Marker for Thrombotic Microangiopathy (TMA) After Allogeneic Stem Cell Transplantation" (2012/12/8)

2:

Influence of High-Risk Esophageal Varices on Outcomes in Hepatocellular Carcinoma Patients: Benefits of Prophylactic Endoscopic Therapies.

Hepatology. 2012 Nov-Dec;59(12):2557-63.

3:

Lymphoepithelioma-like carcinoma of the breast: a case report with a special analysis of an association with human papilloma virus. Anticancer Res. 2012 Apr;32(4):1435-41.

4:

"Gastrointestinal Endoscopy" "A case of Zollinger-Ellison syndrome diagnosed by duodenal ulcer perforation into the gallbladder" Tadashi Inuzuka, MD, Yoshihiro Okabe, MD, Hiroki Nishikawa, MD, Yukio Osaki, MD

5:

ASTRO ポスター発表 'Radiation therapy For Stage IA Esophageal Squamous Cancer'

6:

54th ASTRO Annual Meeting, 2012/10/28-31@Boston Poster Viewing (#821)

Recurrence patterns of glioblastoma in the era of temozolomide

7:

J Neurooncol. 2012 Sep;109(2):425-32.

Outcomes of hypofractionated stereotactic radiotherapy for metastatic brain tumors with high risk factors.

8:

J Radiat Res. Differences in the dose-volume metrics with heterogeneity correction status and its influence on local control in stereotactic body radiation therapy for lung cancer. 2012 Sep 14. [Epub ahead of print]

9:

ESTRO31, Variations in geometric arrangements between lung tumor and implanted gold markers. 2012.5.9-13.

10:

国際膵癌シンポジウム 2012 京都(Pancreas Cancer 2012)、Definitive Radiotherapy for Patients with Isolated Local Recurrence of Primarily Resected Pancreatic cancer: A Retrospective Analysis、2012/10/6

11:

米国放射線腫瘍学会(ASTRO54th)、Fluoroscopic Lung Tumor Tracking based on Gradient-based Features without Fiducial Markers、2012/10/28

12:

Medical Physics 40(2)、Interfractional dose variations in the stomach and the bowels during breathhold intensity-modulated radiotherapy for pancreatic cancer: Implications for a dose-escalation strategy、2013/2/13

13:

Microenvironments and cellular characteristics in the micro tumor cords of malignant solid tumors. Int J Mol Sci.13(11):13949-65.

14:

ESTRO 31. Barcelona, Spain. 10-13 May 2012

15:

International Cancer Conference Journal Two cases of radiation-induced cutaneous angiosarcoma

16.

European Congress of Radiology ポスター発表 「Characterization of breast cancer by Photoacoustic mammography」 Mar1-5,2012 Austria, Vienna

17:

Correlation between docetaxel-induced skin toxicity and the use of steroids and H blockers: a multi-institution survey. The 5th Anniversary of World Cancer Congress-2012, 19 May, 2012, Beijing, China

18:

Therapeutic drug monitoring of docetaxel for a living donor liver transplantation recipient. The 13th International St.Gallen Breast Cancer Conference taking place from 13-16 March 2013 in St. Gallen, Switzerland, 2013

19:

Anti-psychotics as an alternative standard anti-emetic medication for delayed nausea induced by highly emetogenic chemotherapy: Journal of clinical oncology, submitted

20:

Kyoto University Global COE "Center for Frontier Medicine" International Symposium / Retreat 2012 (2012/10/5-6)

21:

PD-L1 on tumor cells is induced in ascites and promotes peritoneal dissemination of ovarian cancer through CTL dysfunction(Clinical Cancer Research)

22:

International Gynecologic Cancer Society (IGCS) 平成 24 年 10 月 13 日 ポスター発表

23:

Oncology Letters. Synchronous primary corpus and ovarian cancer: High incidence of endometriosis and thrombosis. 2012.9.

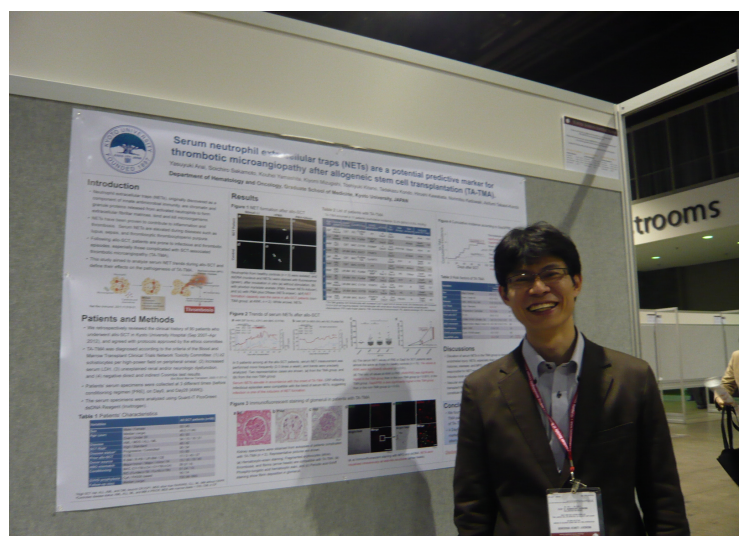
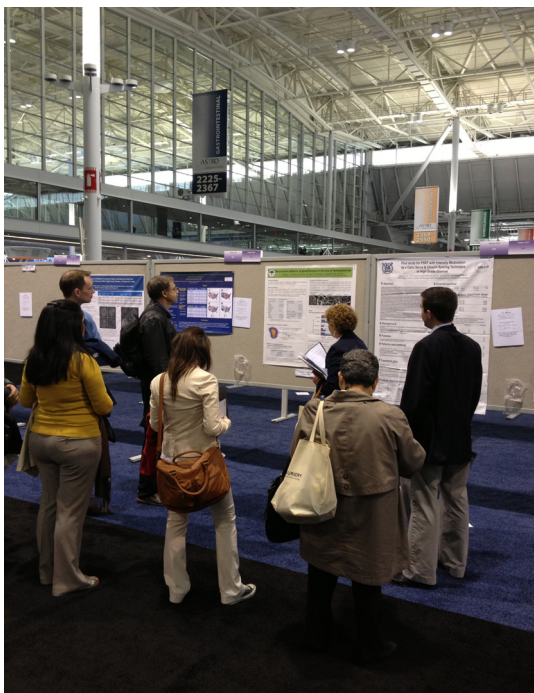


海外学会、海外研究施設視察の参加状況

所属コース	氏名	日程	目的地	学会名等
先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	中村 晶	2012/10/27 ～ 2012/11/2	国名:アメリカ(ボストン) 場所: Boston Convention and Exhibition Center	The 54th American Society for Radiation Oncology
先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	植木 奈美	2012/5/9 ～ 2012/5/18	国名:ノルウェー(オスロ) 場所: Holmenkollen Park Hotel Rica	2012 GAP conference
先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	伊藤 仁	2012/10/27 ～ 2012/11/2	国名:アメリカ(ボストン) 場所: Boston Convention and Exhibition Center	The 54th American Society for Radiation Oncology
先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	飯塚 裕介	2012/5/14 ～ 2012/5/17	国名:ノルウェー(オスロ) 場所: Holmenkollen Park Hotel Rica	2012 GAP conference
次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	鳥井 雅恵	2012/7/4 ～ 2012/7/11	国名:ベルギー(ルーベン) 場所: Pieter De Somer Auditorium	the Cell Symposium Angiogenesis, Metabolic Regulation and Cancer Biology in association with VIB
次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	河口 浩介	2012/5/17 ～ 2012/5/21	国名:中国(北京) 場所: Beijing International Convention Cancer (BICC)	The 5th Anniversary of World Cancer Congress-2012
新しい婦人科がん治療の開発を担う研究者養成コース	奈倉 道和	2012/10/12 ～ 2012/10/17	国名:カナダ(バンクーバー) 場所: Convention Centre 1055 Canada Place	The 14th Biennial Meeting of the International gynecologic Cancer Society (IGCS 2012)
先端医学物理研究者養成コース	秋元 麻未	2012/10/27 ～ 2012/11/2	国名:アメリカ(ボストン) 場所: Boston Convention and Exhibition Center	ASTRO's 54th annual Meeting
先端医学物理研究者養成コース	椋本 宜学	2012/7/28 ～ 2012/8/4	国名:アメリカ(シャーロット) 場所: Charlotte Convention Center	54th AAPM Annual Meeting

先端医学物理研究者養成コース	石原 佳知	2012/10/27 ～ 2012/11/2	国名:アメリカ(ボストン) 場所: Boston Convention and Exhibition Center	The 54th American Society for Radiation Oncology
先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	小倉 健吾	2012/10/27 ～ 2012/11/1	国名:アメリカ・マサチューセッツ州(ボストン) 場所: Boston Convention and Exhibition Center	The 54th American Society for Radiation Oncology
先端医学物理研究者養成コース	棕本 宜学	2012/10/27 ～ 2012/11/2	国名:アメリカ・マサチューセッツ州(ボストン) 場所: Boston Convention and Exhibition Center	ASTRO's 54th Annual Meeting
次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	新井 康之	2012/12/6 ～ 2012/12/13	国名:アメリカ・ジョージア州(アトランタ) 場所: Georgia World Congress Center	54th ASH Annual Meeting and Exposition
新しい婦人科がん治療の開発を担う研究者養成コース	村上 隆介	2012/10/13 ～ 2012/10/16	国名:カナダ(バンクーバー) 場所: Vancouver Convention Centre	the 14th Biennial Meeting of the International Gynecologic Cancer Society (IGCS 2012)
次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	木曾 末厘乃	2013/2/14 ～ 2013/2/16	国名:韓国 場所:ソウル大学	最新の癌診断、治療に関する施設見学
次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	植弘 奈津恵	2013/2/14 ～ 2013/2/16	国名:韓国 場所:ソウル大学	最新の癌診断、治療に関する施設見学
先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	飯塚 裕介	2012/5/9 ～ 2012/5/13	Barcelona, Spain	ESTRO 31
先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	池田 格	2012/05/10 ～ 2012/05/13	Barcelona, Spain	ESTRO 31
次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	多久和 晴子	(2013年3月予定)		European Congress of Radiology
次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	河口 浩介	2013/2/12 ～ 2013/2/14	Soul, Korea	Seoul National University Hospital,

次世代の手術療法・ 機器開発を担う研究 者養成コース	河口 浩介	2013/3/13 ～ 2013/3/16	St. Gallen, Switzerland	The 13th International St.Gallen Breast Cancer Conference
新しい婦人科がん治 療の開発を担う研究 者養成コース	村上 隆介	2012/10/11 ～ 2012/10/12	カナダ ブリティッシュコロンビア大 学	ブリティッシュコロンビアの癌センターを 見学
高度ながん研究・がん チーム医療を実践でき るがん専門薬剤師(研 究者)養成コース	新家 遥	2012/11/1 ～ 2012/11/4	米国 サンディエゴ	45th ASN Kidney Week 2012 Annual Meeting
先端医学物理研究者 養成コース	佐々木 恒平	2012/3/26 ～ 2012/3/31	Beijing, China	World Congress on Medical Physics and Biomedical Engineering
先端医学物理研究者 養成コース	秋元 麻未	2012/7/29 ～ 2012/8/2	Charlotte	AAPM 54th Annual Meetin
先端医学物理研究者 養成コース	椋本 宜学	2012/12/16 ～ 2012/12/21	Belgium ブリュッセル大学 (Vrije Universiteit Brussel)	附属病院の視察、ブリュッセル大学と の共同研究会議への参加、ブリュッセル 大学医学物理部門 博士課程公聴 会への参加
合計 26 件				



国内学会、国内研究施設視察の参加状況

所属コース	氏名	日程	目的地	学会名等
新しい婦人科がん治療の開発を担う研究者養成コース	安彦 郁	2012/7/19	東京都 グランドプリンスホテル新高輪	第52回日本婦人科腫瘍学会学術講演会
先端医学物理研究者養成コース	小野 智博	2012/09/13 ～09/15	茨城県つくば市 つくば国際会議場	第104回日本医学物理学会学術大会
新しいがんリハビリテーション法 の開発を担う研究者養成コース	朴 文華	2012/10/24 ～10/27	横浜市 パシフィック横浜	第50回日本癌治療学会学術集会
新しいがんリハビリテーション法 の開発を担う研究者養成コース	松岡 優	2012/10/24 ～10/27	横浜市 パシフィック横浜	第50回日本癌治療学会学術集会
新しいがんリハビリテーション法 の開発を担う研究者養成コース	華井 明子	2012/10/24 ～10/27	横浜市 パシフィック横浜	第50回日本癌治療学会学術集会
次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	多久和 晴子	2012/10/25 ～10/27	横浜 パシフィック横浜	第50回日本癌治療学会学術集会
次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	河口 浩介	2012/11/2 ～ 2012/11/4	東京 東京青年会館	The 1st TeamOncology Leadership Academy
先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	植木 奈美	2012/11/22 ～11/25	東京 東京国際フォーラム	日本放射線腫瘍学会
先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	井上 実	2012/11/22 ～11/25	東京 東京国際フォーラム	日本放射線腫瘍学会
先端医学物理研究者養成コース	秋元 麻未	2012/11/22 ～11/23	東京都 東京国際フォーラム	JASTRO日本放射線腫瘍学会第25回学術大会
先端医学物理研究者養成コース	小野 智博	2012/11/22 ～11/25	東京都 東京国際フォーラム	JASTRO日本放射線腫瘍学会第25回学術大会
先端医学物理研究者養成コース	石原 佳知	2012/11/22 ～11/25	東京都 東京国際フォーラム	JASTRO日本放射線腫瘍学会第25回学術大会
先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	中村 晶	2012/11/22 ～11/25	東京都 東京国際フォーラム	JASTRO日本放射線腫瘍学会第25回学術大会

先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	伊藤 仁	2012/11/22 ～11/25	東京都 東京国際フォーラム	JASTRO日本放射線腫瘍学会第25回学術大会
先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	片桐 幸大	2012/11/22 ～11/25	東京都 東京国際フォーラム	JASTRO日本放射線腫瘍学会第25回学術大会
先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	飯塚 裕介	2012/11/22 ～11/25	東京都 東京国際フォーラム	JASTRO日本放射線腫瘍学会第25回学術大会
先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	中嶋 綾	2012/11/22 ～11/25	東京都 東京国際フォーラム	JASTRO日本放射線腫瘍学会第25回学術大会
先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	中村 京平	2012/11/22 ～11/25	東京都 東京国際フォーラム	JASTRO日本放射線腫瘍学会第25回学術大会
先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	池田 格	2012/11/23 ～11/25	東京 東京国際フォーラム	日本放射線腫瘍学会
先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	池田 格	2012/11/23 ～11/25	東京都 東京国際フォーラム	JASTRO日本放射線腫瘍学会第25回学術大会
先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	後藤 容子	2012/11/23 ～11/25	東京都 東京国際フォーラム	JASTRO日本放射線腫瘍学会第25回学術大会
次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	河口 浩介	2012/11/28 ～12/1	那覇市 沖縄コンベンションセンター	第33回日本臨床薬理学会学術総会
新しいがんリハビリテーション法の開発を担う研究者養成コース	朴 文華	2012/6/21 ～6/22	長野県 軽井沢プリンスホテルウエスト	第66回日本食道学会学術集会
新しいがんリハビリテーション法の開発を担う研究者養成コース	松岡 優	2012/6/22 ～6/23	神戸市 神戸国際展示場	第17回日本緩和医療学会学術大会
新しいがんリハビリテーション法の開発を担う研究者養成コース	華井 明子	2012/6/22 ～6/23	神戸市 神戸国際展示場	第17回日本緩和医療学会学術大会
新しいがんリハビリテーション法の開発を担う研究者養成コース	朴 文華	2012/6/26 ～6/28	大阪市 大阪国際会議場	第10回日本臨床腫瘍学会学術集会
新しいがんリハビリテーション法の開発を担う研究者養成コース	松岡 優	2012/6/26 ～6/28	大阪市 大阪国際会議場	第10回日本臨床腫瘍学会学術集会
新しいがんリハビリテーション法の開発を担う研究者養成コース	田畑 阿美	2012/6/26 ～6/28	大阪市 大阪国際会議場	第10回日本臨床腫瘍学会学術集会

新しい婦人科がん治療の開発を担う研究者養成コース	天野 泰彰	2012/7/19 ~7/20	東京都 グランドプリンスホテル 新高輪	第52回日本婦人科腫瘍学会学術講演会
新しい婦人科がん治療の開発を担う研究者養成コース	村上 隆介	2012/7/19 ~7/20	東京都 グランドプリンスホテル 新高輪	第52回日本婦人科腫瘍学会学術講演会
新しい婦人科がん治療の開発を担う研究者養成コース	奈倉 道和	2012/7/19 ~7/20	東京都 グランドプリンスホテル 新高輪	第52回日本婦人科腫瘍学会学術講演会
次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	河口 浩介	2012/7/26 ~7/29	大阪市 大阪国際会議場	第10回日本臨床腫瘍学会学術集会
新しい婦人科がん治療の開発を担う研究者養成コース	尾崎 由直	2012/7/27 ~7/29	大阪市 大阪国際会議場	第10回日本臨床腫瘍学会学術集会 第10回日本臨床腫瘍学会学術集会 教育セミナーBセッション
次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	植弘 奈津恵	2012/9/11 ~9/14	東京 日本BD社東京テクニカルサポートセンター	日本ベクトン・ディッキンソン株式会社
新しい婦人科がん治療の開発を担う研究者養成コース	天野 泰彰	2012/9/18 ~9/22	北海道札幌市 ロイトン札幌	第71回日本癌学会学術総会
新しい婦人科がん治療の開発を担う研究者養成コース	奈倉 道和	2012/9/18 ~9/21	札幌市 ロイトン札幌	第71回日本癌学会
新しい婦人科がん治療の開発を担う研究者養成コース	村上 隆介	2012/9/20 ~9/21	札幌市 ロイトン札幌	第71回日本癌学会
新しいがんリハビリテーション法の開発を担う研究者養成コース	華井 明子	2012/9/20 ~9/22	福岡市 九州大学医学部百年講堂	第25回日本サイコオンコロジー学会総会
手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	松本 純明	2013/1/26 ~1/27	栃木県宇都宮市 とちぎ健康の森	第88回乳房超音波講習会

所属コース	氏名	目的地・学会名等
次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	菊池 理	日本食道学会学術集会、消化器内視鏡学会
次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	吉岡 拓人	総会、JDDW2012 へ私費にて参加
次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	樋渡 直	第 10 回日本臨床腫瘍学会(8 月 26 日～28 日)参加、第 20 回日本臨床腫瘍学会主催教育セミナーB セッション受講、第 21 回日本臨床腫瘍学会主催教育セミナーA セッション参加予定(3 月)
次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	犬塚 義	日本癌学会学術総会(北海道)
次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	中奥 敬史	75 歳以上の高齢者進行非小細胞肺癌(非扁平上皮癌)に対するペメトレキセド単剤の第 II 相試験(KTORG0901)、第 53 回日本肺癌学会総会 2012 年 11 月 8-9 日 岡山、測因子としての血管内皮前駆細胞(CEP)の検討、第 53 回日本肺癌学会総会 2012 年 11 月 8-9 日 岡山
次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	有馬 浩史	第 74 回日本血液学会学術集会 ポスター演題発表 Title: Blast crisis of CML with multidrug resistance possibly due to multiple duplication of BCR-ABL gene
次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	佐藤 元彦	肝胆膵外科学会(セミナー受講)、臨床腫瘍学会(セミナー受講)、Eastern Western HCC conference(参加のみ)
先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	伊藤 仁	日本食道学会、日本肺癌学会、日本放射線腫瘍学会
先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	中村 晶	第 301 回日本医学放射線学会関西地方会 大阪(私費)2012/7/14、第 25 回日本放射線腫瘍学会 東京(私費)2012/11/25
先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	井上 実	第 25 回日本放射線腫瘍学会(がんプロ経費)、第 10 回がんとハイポキシア研究会(その他経費)、第 20 回日本乳癌学会(私費)、第 71 回日本癌学会(その他経費)
次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	植弘 奈津恵	Organisation for Oncology and Translational Research 年次学会
次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	中西 保貴	外科学会、消化器外科学会にて発表
次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	河口 浩介	10th Annual Meeting of the Japanese Society of Medical Oncology 2012/6/26-28 大阪、第 20 回日本乳癌学会学術総会 熊本 2012/6/30

次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	澤田 篤郎	日本内視鏡外科学会
新しい婦人科がん治療の開発を担う研究者養成コース	安彦 郁	24年4月日本産科婦人科学会学術講演会、9月日本癌学会学術総会、12月日本免疫学会学術総会、25年2月婦人科がんバイオマーカー研究会(参加予定)
新しい婦人科がん治療の開発を担う研究者養成コース	山ノ井 康二	日本産科婦人科学会 学術集会(2012.4 東京)、日本婦人科腫瘍学会(2012.7 東京)
高度ながん研究・がんチーム医療を実践できるがん専門薬剤師(研究者)養成コース	新家 遥	45th ASN Kidney Week 2012 Annual Meeting 米国サンディエゴ市 2012/11/1-4 参加及び研究成果発表
先端医学物理研究者養成コース	佐々木 恒平	第68回日本放射線技術学会総合学術大会 パシフィコ横浜 2012/4/12-15(その他経費)、第103回医学物理学会学術大会 パシフィコ横浜会議センター 2012/4/12-15(その他経費)、第104回医学物理学会学術大会 つくば国際会議場 2012/9/13-15(その他経費)、視察施設:独立行政法人産業技術総合研究所放射線標準研究室 茨城県つくば市 2012/9/14(その他経費)
先端医学物理研究者養成コース	小野 智博	第21、22、23回 京大病院高精度放射線治療ワークショップ
先端医学物理研究者養成コース	椋本 宜学	第21、22、23回 京大病院高精度放射線治療ワークショップ
新しいがんリハビリテーション法の開発を担う研究者養成コース	華井 明子	日本癌治療学会、日本サイオンコロジー学会、日本臨床腫瘍学会、医療法人社団三喜会鶴巻温泉病院緩和ケア病棟
新しいがんリハビリテーション法の開発を担う研究者養成コース	松岡 優	第10回日本臨床腫瘍学会
新しいがんリハビリテーション法の開発を担う研究者養成コース	朴 文華	2012年5月第47回日本理学療法学術大会(神戸)、2012年6月第66回日本食道学会学術集会(長野)、2012年7月第10回臨床腫瘍学会学術集会(大阪)、2013年1月第2回がんのリハビリテーション懇話会(東京)
合計 96 件		

プロトコル作成への関与一覧

プロトコル作成への関与状況等	氏名	コース名
食道癌化学療法の臨床試験につき、武藤教授の指導の下で実施計画書を作成中です。	菊池 理	抗悪性腫瘍薬臨床開発
①大腸癌化学療法に対する制吐療法を検討するための臨床第Ⅱ相試験 ②消化器癌化学療法の治療成績向上を目的とした個別化治療に関する血液バイオマーカー研究 ③食道癌化学放射線療法後の局所遺残再発例に対する ME2906 および PNL6405EPG を用いた光線力学的療法の多施設共同臨床第Ⅱ相試験	尾崎 由直	抗悪性腫瘍薬臨床開発
KTORG1101、TALIMTA	中奥 敬史	抗悪性腫瘍薬臨床開発
びまん性大細胞型B細胞リンパ腫における免疫グロブリン重鎖アイソタイプの予後因子としての検討(調査実施計画書作成中)	有馬 浩史	抗悪性腫瘍薬臨床開発
開発測定試薬を用いた肝細胞癌の予後予測因子の検討(倫理委員会申請中)	佐藤 元彦	抗悪性腫瘍薬臨床開発
肺定位放射線治療における動体追尾照射の有効性と安全性評価のための臨床検Ⅰ級	植木 奈美	先端的放射線治療開発
①切除可能境界膵癌に対するゲムシタビン・IMRT 併用による術前化学放射線療法の第Ⅱ相臨床試験 (院内倫理委員会提出予定) ②JROSG 頸部食道癌に対する強度変調放射線治療(IMRT)を用いた化学放射線療法の多施設共同第Ⅱ相臨床試験 (院内倫理委員会提出予定) ③上腹部臓器がんに対する動体追尾照射における精度研究(院内倫理委員会提出済み) ④膵癌診療ガイドライン改訂委員会 <改訂協力者> ⑤GEPNET ガイドライン改訂委員会	中村 晶	先端的放射線治療開発
「上腹部臓器がんに対する動体追尾照射における精度研究」(IRB 審査中)	飯塚 裕介	先端的放射線治療開発
「上腹部臓器がんに対する動体追尾照射における精度研究」(IRB 審査中)	池田 格	先端的放射線治療開発
切除可能境界膵癌に対するゲムシタビン・IMRT 併用による術前化学放射線療法の第Ⅱ相臨床試験:肝胆膵外科が主導であるが、わずかであるが一部放射線治療に関する部分の記載に関与・話し合いにも参加	片桐 幸大	先端的放射線治療開発

当院単施設での前向き一般臨床介入研究である「乳房温存療法における加速部分乳房照射の安全性と有効性評価のための臨床研究」において、プロトコル作成、症例登録、実際の治療を行った。現在、追跡調査を行っている。	井上 実	先端的放射線治療開発
血中循環乳癌細胞に対するエピジェネティクス・マルチマーカーの実用化開発研究 プロトコル作成	植弘 奈津恵	手術療法・ 機器開発
HER2 陽性乳癌に対する術前 FEC75+trastuzumab 同時投与	多久和 晴子	手術療法・ 機器開発
プラチナ抵抗性再発・進行卵巣癌に対する ONO-4538 を用いた免疫療法に関する第 II 相試験に治験協力医師として参加	安彦 郁	婦人科がん 治療の開発
プラチナ耐性の再発・進行卵巣がんに対する抗 PD-1 抗体を用いた免疫療法の治験 (医師主導型第 2 相試験)	山ノ井 康二	婦人科がん 治療の開発
関与した臨床研究 ①動体追尾照射のための肺癌動体解析 ②動態追尾照射のための肝臓癌動態解析 ③動態追尾照射のための膵臓癌動態解析	椋本 宜学	先端医学物 理研究者養 成
「乳癌化学療法に伴う便秘に対する予防介入による効果の探索的研究」	華井 明子	がんリハビ リテーション 法の開発
外来化学療法を受ける肺がん患者の身体活動量調査	松岡 優	がんリハビ リテーション 法の開発
①「学齢期後半から青年期中期における、巧緻性の高い協調運動の発達に関する調査および簡易検査の開発」 ②「日本版 Sensory Processing Measure-Preschool 標準化に関する研究」	田畑 阿美	がんリハビ リテーション 法の開発
外来化学療法を受ける肺がん患者の身体活動量調査	朴 文華	がんリハビ リテーション 法の開発
合計 27 件		

国内学会、和文誌への論文発表一覧

1:

日本造血細胞移植学会雑誌. 2012;1:59-65. 「同種造血幹細胞移植におけるタクロリムス水和物徐放性カプセルの使用経験」 2012/8/2

2:

第 64 回気管食道科学会(2012 年 11 月 8 日～9 日)、第 25 回日本喉頭科学会(2013 年 3 月 7 日～8 日) 「HER-2 過剰発現を呈した顎下腺原発唾液腺導管癌の 2 例」(in press:2 月掲載予定)

3:

EMT と食道扁平上皮癌、Surgery Frontier 19: 51-55, 2012.

4:

「手術標本で認められる人為的に誘導された上皮間質転換:癌研究における意味」(日本癌学会学術総会、2012 年 9 月、札幌)

5:

日本肝臓学会大会(神戸)、和文“肝臓 53 巻 1 号 42—47(2012)”“エンテカビル・ペグインターフェロン α -2b 併用 48 週治療にて HBs 抗原が消失した B 型慢性肝炎の 1 例”

6:

平成 24 年 10 月 10 日 日本肝臓学会総会 ポスター発表

7:

第 112 回日本外科学会定期学術集会『被験者予測システムを用いた真の胆道癌根治切除率の検討』(口演発表:私費)、第 67 回日本消化器外科学会総会『腹腔鏡補助による進行胆道癌手術の低侵襲化』(口演発表:私費)

8:

第 112 回日本外科学会定期学術集会『被験者予測システムを用いた真の胆道癌根治切除率の検討』(口演発表:私費)

9:

第 67 回日本消化器外科学会総会『腹腔鏡補助による進行胆道癌手術の低侵襲化』(口演発表:私費)

10:

第 21 回 日本定位放射線治療学会 2012/6/1@群馬 ポスター発表
初発時 WHO Grade II-III の再発 glioma に対する救済定位放射線治療の初期検討

11:

第 25 回 日本放射線腫瘍学会学術大会 2012/11/23@東京 口演発表
初発神経膠芽腫に対するテモゾロマイド併用化学放射線治療後の再発形式の検討

12:

日本放射線腫瘍学会 第 25 回学術大会,間質性肺疾患の画像所見を有する患者における体幹部定位放射線治療後の放射線肺臓炎,、2012/11/23

13:

第 301 回日本医学放射線学会関西地方会、膀胱癌に対する GEM 併用化学放射線療法: FDG-PET 検査における予後因子としての SUVmax 値の解析、2012/7/14

14:

第 25 回日本放射線腫瘍学会、局所進行膀胱癌に対する少量 GEM 併用化学放射線療法の有用性 および当院の現在の取り組み、2012/11/25

15:

日本放射線腫瘍学会(JASTRO) 第 25 回学術大会

16:

平成 24 年 9 月 日本癌学会総会

17:

第 25 回日本放射線腫瘍学会「加速部分乳房照射における画像誘導位置照合を用いた Inter-fractional error 低減の試み」2012 年 11 月 24 日

18:

第 20 回日本乳癌学会学術総会 口演発表 「光超音波マンモグラフィを用いた乳癌の個別化の試み」
Jun.28,2012 熊本

19:

京滋乳癌研究会 口演発表 「トリプルネガティブ(basal-like)乳癌における術前化学療法の検討」 Sep.1,2012
京都

20:

「超小型無線タグを用いた胸腔鏡下微小病変位置特定システムの開発」日本呼吸器外科学会総会要望演題「5呼吸器外科領域における医工連携の現状」 2012年5月17日 秋田

21:

第112回日本外科学会定期学術集会 HER2-ECDの臨床有用性についての検討 2012年4月13日

22:

第20回日本乳癌学会学術総会 NAC症例における治療前後MRIについての検討 2012年6月28日

23:

第50回日本癌治療学会学術集会 化学療法施行症例における治療関連性心機能低下についての検討
2012年10月26日

24:

日本臨床外科学会雑誌 HER2陽性乳癌に対する術前FEC75+trastuzumab同時投与 2012年10月25日発行

25:

化学療法による嘔気・嘔吐に対するレスキュードラッグとしてのオランザピンの有効性 第20回日本乳癌学会学術総会 熊本 2012年6月30日

26:

Correlation between docetaxel-induced skin toxicity and the use of steroids and H blockers: a multi-institution survey. 10th Annual Meeting of the Japanese Society of Medical Oncology, 26-28 July 2012: Osaka, Japan

27:

第20回日本乳癌学会

28:

文部科学省科学研究費補助金 新学術領域研究『がん研究分野の特性等を踏まえた支援活動』平成24年度がん若手研究者ワークショップ(平成24年9月5-8日)

29:

日本乳癌学会総会、2012年6月28日発表、男性乳輪下膿瘍の1例

30:

胸腔鏡下膀胱全摘除術～術式の確立を目指して～; Audio-Visual Journal of JUA 2013.1 Vol19 No.1

31:

2012年4月 第64回日本産科婦人科学会学術講演会 発表

32:

2012年7月 第52回日本婦人科腫瘍学会学術講演会にて発表

33:

2012年9月 第71回日本癌学会学術総会にて発表

34:

2012年12月 日本免疫学会学術集会にて発表

35:

2012年9月第71回日本癌学会学術総会 発表

36:

2012年12月日本免疫学会学術集会 発表

評 価 結 果 表

採点は、A:優、B:良、C:可、D:やや不十分、E:不可の5段階評価

	項目番号	達成目標	評価覧 (ABCDEで評価下さい)		
			評価者 1	評価者 2	評価者 3
達成目標 1 全グループ 共通	1	各コースの受入目標人数に対する入学者数、充足率を満たすための取組みはなされているか	A	A	A
	2	がんに関する専門資格の取得へ向けた具体的な取組みがなされているか	A	A	B
	3	コース履修者の満足度を満たすための取組みがなされているか	A	B	B
	4	がんの特化した新講座の設置計画は計画どおり進められているか 講座の活動状況は	A	A	A
	5	教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの取組み状況、開催数と参加者数	B	A	A
	6	外部委員による外部評価を実施し、PDCA サイクルを活用することで、プログラムの発展的な見直しを行う体制になっているか	A	A	A
達成目標 2 全グループ 共通	7	医療チーム(放射線治療チーム、化学療法チーム、緩和ケアチーム等)の整備数、24年度の新たな整備数	A	A	C
	8	多職種が共同で参加できるカンサーボード等の整備数、 24年度の新たな導入数	B	B	B
	9	医療チーム、カンサーボードの質の向上のための取組実績	B	A	C
	10	コース履修者の医療チーム、カンサーボードへの参加人数、開催数、期間等	B	A	B
	11	院内がん登録件数・活用実績、地域がん登録との連携実績、	A	B	B
	12	地域医療機関、医師会、薬剤師会、看護団体、患者団体等との連携した取組件数、参加者数	A	B	A

	13	社会への情報発信の取組実績(一般向け講演会の開催回数・参加者数)	B	B	B
	14	本事業のホームページを開設し、積極的な情報公開を行う体制となっているか	A	B	A
達成目標 3 国際交流	15	コース履修者の国際学会、英文誌への研究論文発表数	B	A	B
	16	コース履修者の先進的な海外研究機関等への研修派遣数、国際学会等への参加者数	B	A	B
	17	国際交流プログラムの実施数	A	A	A
	18	海外で活躍している研究者を講師とする講演会等の開催数	B	A	B
	19	コース履修者が海外の先進的医療・研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み	B	A	A
達成目標 3 連携大学間 職種間連携	20	連携5大学による「合同フォーラム」の開催、 24年度の取組み参加状況	A	B	A
	21	連携大学間・人材交流等連携事業の実施件数	B	A	B
	22	連携5大学 コース履修者の e-learning 受講登録率	B	A	B
	23	新たな e-learning 講義科目の提供の取組みについて	B	A	B
	24	医療チーム、カンサーボードの質の向上のための取組実績	B	A	B
達成目標 3 教育改革	25	がん診療連携拠点病院や地域医療機関・団体等と連携した教育実績件数	B	A	B
	26	多職種連携教育の実施件数・参加者数、 多職種連携教育推進の取組み状況	A	B	B
	27	がん診療連携拠点病院での緩和ケア研修会の修了者に対するフォローアップ研修会等の実施状況	B	A	A
	28	各大学がんセンターや放射線治療施設等と連携したチーム医療研修の推進	B	B	B
達成目標 3 地域貢献	29	地域医療機関等と連携した地域医療貢献への取組件数	A	B	B
	30	市民公開講座等一般向け講演会の開催数	B	B	A

	31	インテンシブ事業を活用した地域医療貢献の推進状況	B	A	B
	32	本事業概要等の発行、ホームページの充実への取組み状況	A	A	A
	33	県内でのがん対策の企画、立案への貢献の取組みについて	B	A	B
	34	ITを用いた効率的な連携による地域完結型医療体制の構築の取組み	B	A	B
	35	テレビ会議システムを用いた多職種カンファレンスにより、県内の医療の質向上への取組み	B	A	B
	36	がん医療に係る企業等との共催・連携推進の取組み	B	B	B
達成目標 3 研究者養成	37	コース履修者が関与したプロトコル(臨床研究実施計画書等)作成件数	B	A	A
	38	国際学会、英文誌への研究論文発表数	B	A	A
	39	学会への研究論文の発表推進への取組み	B	A	A
	40	先進的な海外研究機関等への研修派遣、国際学会等への参加数	B	A	A
	41	がんプロ大学院生が国内外学会、研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み状況	B	A	A
	42	がん研究基盤の発展構築へ向けた取組み状況	B	A	B
	43	新たながん医療分野の開拓推進へ向けた取組み状況	B	A	A

(評価者1) 全体的な評価、今後の在り方等について

本事業は、京都大学を主幹とする5大学がお互いに連携協力しながら、先端のがん研究者および地域がん医療に貢献するがん専門医療人の養成を行う取組である。

事業初年度にもかかわらずほとんどのコースにおいて予定を上回る受入れ実績があり、計画されていた新講座も設置され、本事業は順調に遂行されている。コース履修者の満足度への配慮、チーム医療やがんセンターボードの整備、地域医療機関または各種団体と連携するセミナーや研修会の開催も高く評価できる。今後の本事業による成果が期待される。

一方、参画大学の重点項目の違いを考慮しても、今回の報告書から判断する限り、京都大学以外の大学の取り組み状況にはまだ改善の余地があるといえる。とくに目立つ項目についてはB評価とした。大学間の交流や連携のメリットをさらに生かすことによって、京都大学の取り組みが他大学に波及することを期待したい。

(評価者2) 全体的な評価、今後の在り方等について

今後の日本の人口動態、チーム医療のあり方を考えると、本プロジェクトの意味、役割は大きく、継続的な取り組みによる人材の養成、スキルの向上が求められる。と同時に、その必要性をアピールするためにも、新聞、テレビ等マスコミを通じて広く人々に理解、周知を図る機会を積極的に講じてほしい。

(評価者3) 全体的な評価、今後の在り方等について

- ・全体として、体制整備の方は良好に推移しているが、活動状況にはばらつきが存在する。
- ・例えば、京都大学の取り組み状況はは全て A 評価できるが、他大学との間で達成度に差がある。
- ・特に一部大学の取り組みは未だ不十分と言わざるを得ず(緩和に偏重している)、奮起を期待したい。
- ・施設間差はどの地域でも存在するが、問題はその解消策であろうと思われる。
- ・ICT を活用した情報共有、人材交流等により、グループ全体として活動力を向上させること(共催方式など)が必要と思われる。